

日本民族の力

田中寛一著

389.1
Ta843



0055006000

0055006-000

389. 1-T a 8 4 3ウ

日本民族の力

田中寛一・著

蛍雪書院

昭和17

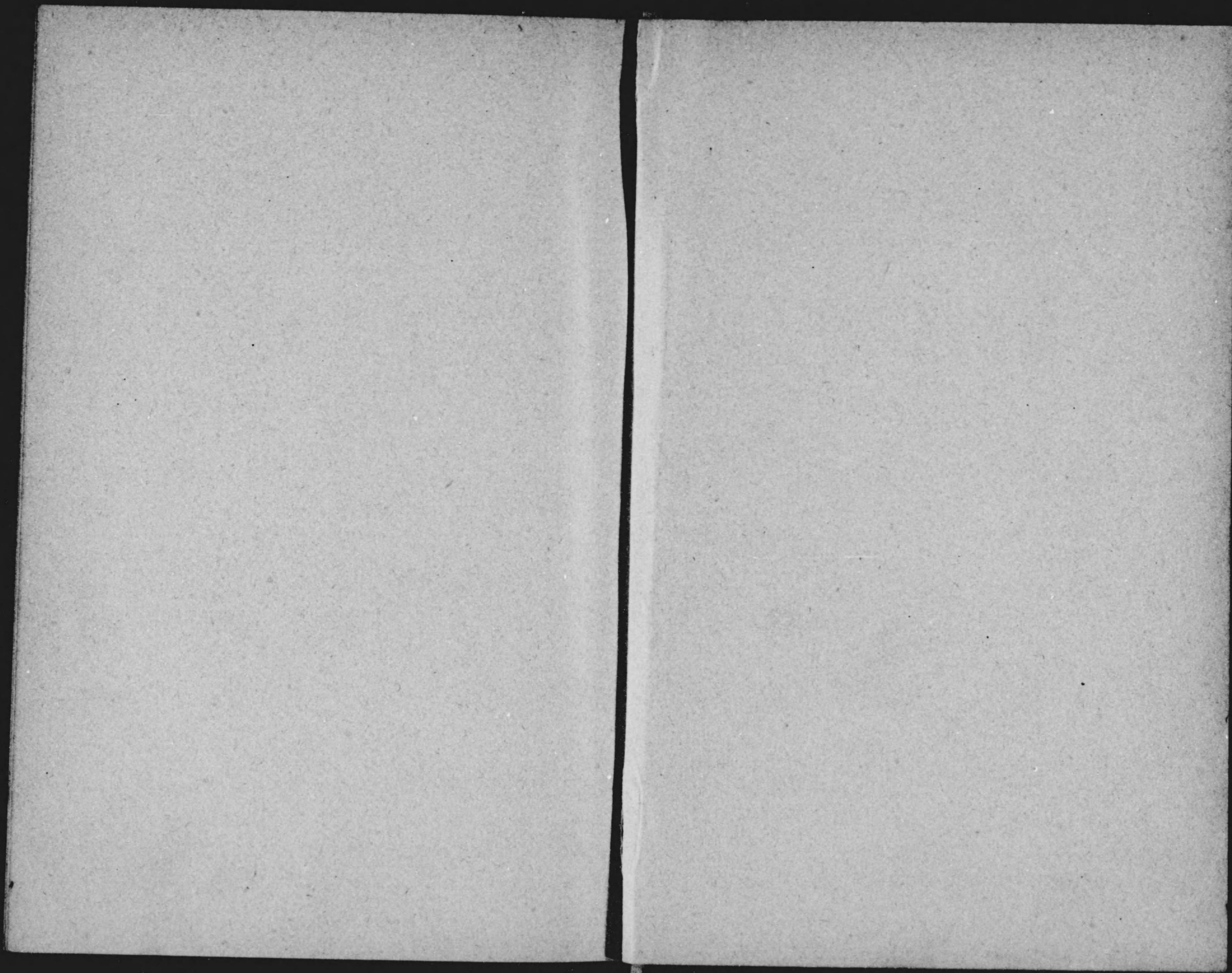
AIE



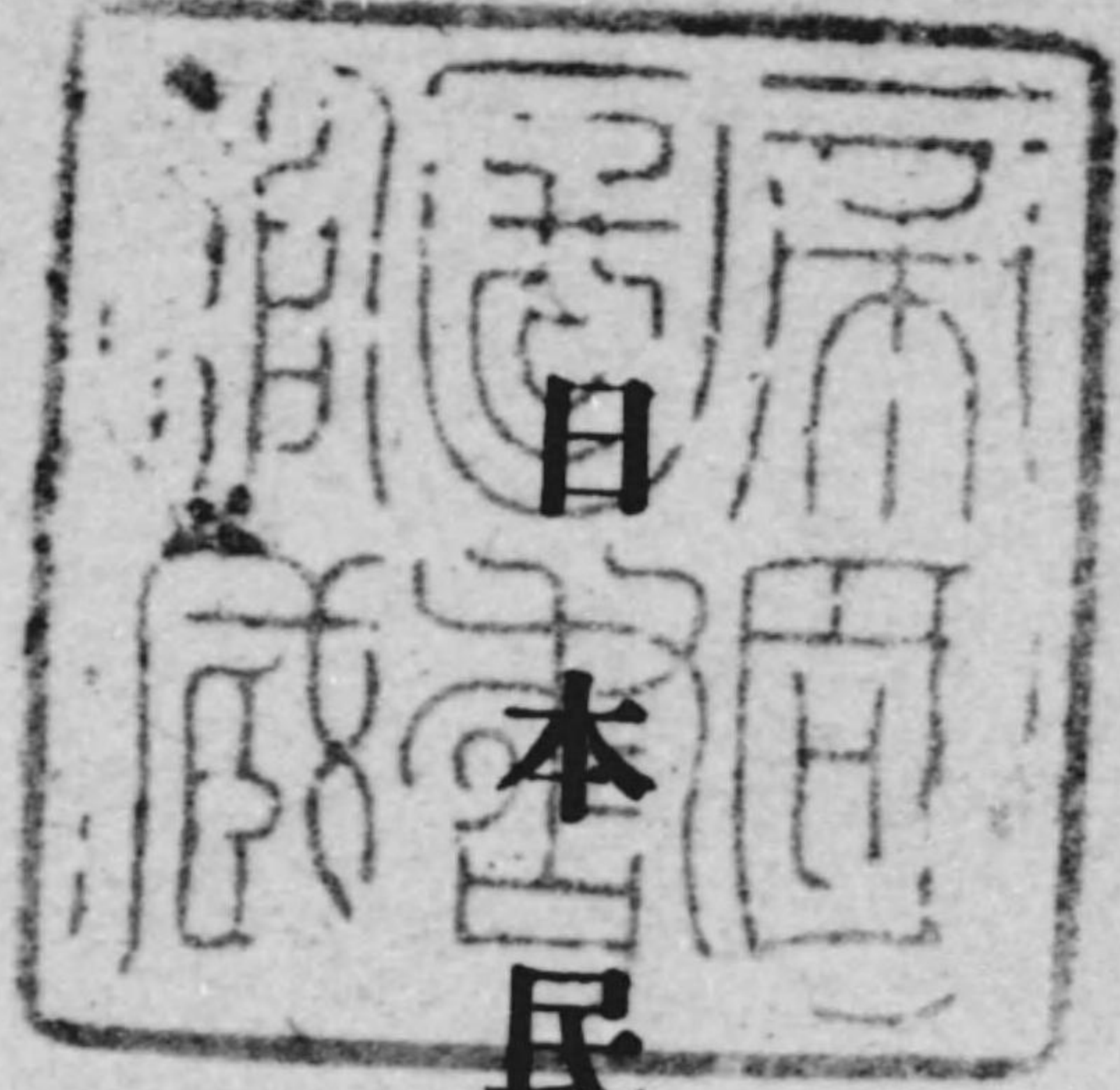
文學博士 田中寬一著

日本民族の力

東京 螢雪書院



389.1
TA843



文學博士 田中寛一著

日本民族の力

發行所

株式會社

螢

雪

書

院



917
142

まへがき

本年二月のはじめ、四回にわたつて、「日本の民族」といふ題で、ラジオを通して話をしたところ、内地、外地の各方面から好意的な質問や、はげましのことばを送られ、また、ぜひ、その内容を公にするやうにとすゝめられる手紙が多く集り、さらに二三の出版業者からは、その出版を求められたのであります。しかし、その當時、私は急いで仕上げるべき仕事をしてゐたため、そのまゝにしてゐたのであります。この夏、すこし、ひまが得られたので、そのときの原稿に多少の筆を加へて、さきに好意を、よせられたかたへの芳情に答へることにしました。

この本の内容には、まだ將來の研究にまたなければならぬ點が、かなり多く残つてゐます。それらの點は、この後、多くの研究者の力によつて補

はれるでありませう。私も、多少材料を集めてゐますから、それがまとも
れば、また書き改めたいとおもつてゐます。
もしも、この本によつて、民族の問題について興味を増された方があつ
たならば、それらのかたぐいはさらに、國家民族の興亡に關する原理を主
として述べた「日本民族の將來」と、東西諸民族の身體と精神に關する比
較研究から、日本民族のすがたを明らかにするつもりで書いた「日本の人
的資源」とを讀まれるやうに希望します。特に、後のものは、この本の内
容を、さらに、くわしく述べたものでありますから、この本の足らないと
ころを補ふことになるかとおもひます。

紀元二六〇一年十月一日

著者しるす

日本民族の力

目次

まへがき

第一章 日本民族の使命	一
第二章 日本民族の身體の特徴	二
一、日本民族の起源	二
二、日本民族の身體	三
三、身體の大きさ	三
四、身體の働き	三
第三章 日本民族の精神の特徴	六
一、日本民族の智能	六

二、日本民族の氣質……………三

三、日本民族の性格……………四

四、日本民族の着眼……………一〇

第四章 日本人口問題……………二七

むすび……………三三

日本民族の力

田中寛一著



第一章 日本民族の使命

支那事變がはじまつてから、早くも第五年目になります。この間、皇室のみゆづの下は、忠勇な將兵諸士の奮闘と銃後國民の努力とによつて、事變は着々とゆが方は都合よく進んでゐますことは、まことによるこぶべきことでもあります。しかし事變はこれからであることをわすれてはなりません。これを富士登山にたとへていへば、われ／＼は、まだ八合目に達してゐるだけでありまして、後は、わづかの距離ではありますが、途中に、むな

つき八丁もあり、全體としてけわしいところであるので、登山はなか／＼困難であります。困難ではあるが、ぜひとも頂上まで登らなければならぬのであります。途中或は強い風におそはれることもありませう。また、その風は雨を伴ふこともありませう。それは、今の國際情勢から見て、たうぜん覺悟してゐなければならぬことでもあります。しかし、どんなに強い雨、はげしい風がおそひかゝらうとも、それを、おし切つて進まなければならぬのであります。そして、それは、われ／＼の決心さへ堅ければ、できるのであります。

事變處理も、今一息といふところではありますが、富士登山にも、くらべらるべき事變處理が終つたとしましても、それでもつて、われ／＼の務は終らないのであります。それは富士山よりも、さらに高い第二の山が、むかふにそびえてゐて、われ／＼の登山をまつてゐるからであります。すなは

ち、われ／＼の登るべき第二の山は大東亞共榮圈の建設といふことであります。それは、今までヨーロッパ人が勢力をはつて、その壓制のもとに、しひたげられてゐる東洋諸民族を救ひ出し、それらを打つて一丸として、諸民族をして、たがひに相たづさへ相助けて、文化の向上をもたらし、幸福な生活をいとなませようとするのであります。これがわが日本民族の理想であり、そして、支那事變は、つまり、この大東亞共榮圈建設のための第一段階であるのであります。

支那事變の處理は、もはや先きが見えてをり、そして、それは骨はをれるけれども、これを第二の山に登ることから見れば、割合に短い年月で終るのであります。それに對していへば、第二の登山は、さらに／＼長い年月を要するのであります。そのわけは、今までのヨーロッパ人のやり方を改めさせ、東洋人を目ざめさせて、日本を中心とする一つの大きい共榮圈を

作り出さなければならぬからであります。このことの實現はかなり長い年月を要することで、十年や二十年では、たうてい完成し得られないことを覺悟してゐなければならぬのであります。

さて、このやうに、長い年月の努力を必要とする事業、すなはち、大東亞共榮圏の建設といふ第二の山に登ることによつて、われ等の使命は終るかといふに、さうではありません。さらに登るべき第三の山があるのであります。しかも、この第三の登山は、第二のものにくらべて、さらに一そら困難な事業なのであります。すなはち、それは世界中の人々をして、この日本の皇道によらせ、眞の文化を向上させて、この地球上に正しい平和をもたらすといふことであります。

昭和十五年十一月宮城御前の廣場においてとり行はれた紀元二六〇〇年のかじやかしい式典において、おそれおほくも國民に下したまはつたお勅

語の中に、

我ガ惟神ノ大道ヲ中外ニ顯揚シ以テ人類ノ福祉ト萬邦ノ協和トニ寄與ス
ルアラジコトヲ期セヨ

といふおことばがありますが、これこそ、私がかゝ今いつた第三の山に登ることなのであつて、そのことを、われ／＼の將來進むべき道しるべとして指示になつたことは、まことにありがたいことでもあります。もちろん、このやうな大理想を實現するには、この後一〇〇年、二〇〇年といふ長い年月を要することでありますが、われ／＼は、このやうな大使命をもつてゐることを、はつきりと心におさめて、不斷の努力を拂はなければならぬのであります。

以上述べましたやうに、この支那事變は、われ等の登るべき第一の山であり、大東亞共榮圏の建設は第二の山、世界中の人々をして皇國の道に則

らしめることが第三の山でありまして、これ等の山々を、それ〴〵に登りつくすことが日本民族に與へられた使命であり、われ等がもつべき理想であります。

さて、このやうな大使命を果たすには、なみ大抵の民族では出来ないこととあります。それでは、日本民族には、このやうな大使命を成就させるだけの力が果してあるかどうか。それに對して私はそれだけの力を十分にもつてゐると信ずるのであります。といふのは日本民族が第二の山に登る力をもつてゐることは過去において、すでに經驗済みであるといつてよいからであります。それについては大昔に、わが民族が朝鮮半島までも進出したことは、しばらくいはないにしても、今から三〇〇年ほど前に臺灣はもちろんのこと、佛印、タイ、フィリッピン、蘭印の島々の到るところに日本町を作つて大いに活躍してゐたことは歴史の證明するところであり

ます。當時は支那人も多數それ等の地方に移住してゐて、その數からいへば日本人よりも遙かに多かつたのであるが、その勢力においては人數の少い日本人の方が優れてゐたのであります。たとへば、山田長政や、またそれほどではなかつたが、バタビアで名をあげた九郎兵衛その他これに類する人々が少くなかつたのであります。もしも、寛永の海外渡航禁止令が出なかつたならば、今さら、この大東亞共榮圈などといふやうなことはいはなくとも、事實として存在してゐたであらうとおもはれるのであります。もちろん、そのころ、日本人が南洋方面まで活躍したのは、今日とは異つて、國の政策或は民族の理想を實現するために、やつたのではなくて、個人的の目的に出たものではあります。日本民族の力量を示した點では、見のがすことの出来ないものであります。

ともかく、早くからこのやうに發展する力を示してゐたのであつて、そ

それを途中でやめさせたといふことは、たいへん残念なことでありませう。その當時は、まだ西洋人の勢力が東亞におよんでゐなかつたから、東亞の諸民族の共存共榮といふ今の日本の理想を實現するには都合がよかつたが、今日では、すでに西洋人が地盤をさびきあげた後であるので、われわれの理想實現の上には、よほど大きい摩擦があることを覺悟しなければなりません。摩擦があり、じやまものがあり、したがつて、多くの犠牲を拂はなければならぬのであります。前に、理想實現はかなり困難であるといつたのは、そのことであります。しかし、どんなに困難であつても、今にしてこの理想の實現に向つて突き進んで行かなければ、後になるほど困難の度が加はり、悔を千年の後に残すことになり、ちやうど今われわれが寛永年間に海外渡航をさびしく禁じたことを、非常に残念にもつてゐるやうに、將來、われらの子孫をして、残念がらせることになるのであります。

そのやうな悔を後世に残さないために、今から力をあはせて亞細亞諸民族をヨーロッパ人の手から解放して、彼等のしぼり取る政治からまぬかれさせ、正しい平和な、眞に幸福な生活をいとなみ得るやうに導かねばならぬのであります。

第二章 日本民族の身體の特徴

一、日本民族の起源

前には、われ等の使命が何であるかについて述べ、そして日本民族がそのやうな使命を實現し得る力があるかについては、過去において、すでに大いに力を現はし得たといふ事實のあることを見たのでありますが、さて、現代の科學の眼をもつて、現代の日本人を見たときに、どうであるかといふことが、つぎの問題であります。優れてゐるとしても、すべての點においてさうではないであります。長所もあれば、短所もあります。そこで、これから日本人について、それ等の點を考へて、われ人の自覺と反省とを促がす材料といたしたいのであります。

一體、日本民族とは、どんな民族であるか。おそらくは、やまと民族を中心として、いろ／＼の民族の血がまじつたものであらうとおもはれます。歴史あつて以來のことを考へても、前からゐたアイヌ族のほかには朝鮮半島から、或は支那大陸から、この日本内地に移住して來たものがたくさんにあります。歴史以前にさかのぼつて見れば、さらに他の地方、たとへば南洋の方面から來たものもあらうとおもはれます。このやうに多くの民族のまざつてゐるであらうといふことは、同じく日本人といつても、顔つきや頭の格好などが、いろ／＼とちがつてゐることでも考へられるのであります。おほよそ、たゞ一種の民族が純血を保つてゐるよりも、多くの民族が、まざつてゐる方が素質の劣つたものも出るかはりに、また優れたものが出る可能性が多いとされてゐますが、日本民族は過去において多くの民族が、やまと民族を中心として、とけあつて發展して來たものとす

れば、劣等者もあるが、指導者になり得るやうな大人物の出ることも豫期されるのであります。歴史上に名を残してゐるやうな人物はみな、そのやうな人々であらうとおもはれます。

さて、日本民族の起りは、右のやうなところにあるとおもはれますが、今日の日本民族の身體はどうであるか、また、その精神の特徴はどうであるかといふやうな問題を出して、それらの問題に對する答を求めれば、日本民族の力について、その現状を知り、その將來について見とほすことが出来るのであります。なほ、民族の將來について考へるには、このやうな性質に關する方面だけでなく、さらに、その分量の方面、すなはち、人口の動態について眺めて見なければならぬのであります。

二、日本民族の身體

一、相貌 相貌は、解剖學的特徴に基いて、おもに外から見えるすがたであつて、人種の區別をする材料として、よく用ひられるものであります。従つて、人的資源といふ見地からすれば、あまり價値のないものであるが、それが、しばしば人種の優劣を示すやうに考へられ、ヨーロッパ人もつて優秀民族であるとする習慣があり、彼等をうぬぼれさせ、われわれ日本人に劣等感を引き起こすことが少くなかつたので、最初に、少しくこの方面について考へておく必要を感じるのであります。

これまで身體について、その優劣を區別するには、通例は動物、特に人間に近い猿の身體を基準として、動物に似てゐれば劣等であるとし、また動物から遠ざかつてをれば、優等であるとするのであります。このやうな比較をすれば日本人は或る方面ではヨーロッパ人よりも優等であり、また他の方面では劣等であります。いま日本人の動物に近い點の二、三をあげ

て見れば、

(一)日本人の鼻は低い猿もさうである。(二)日本人の顔面角度が小さい。顔面角度といふのは、鼻のつけ根と上顎とを結ぶ線が水平面となす角度であつて、動物のはそれが小さい。(三)動物の血管の状態と同じ状態が日本人に多くあつて西洋人に少い、といふやうな點があげられ、これらは日本人の劣つてゐると考へられるところであります。

ところが、つぎの諸點では日本人の方が優れてゐます。(一)額から鼻への移りぎわがヨーロッパ人のは猿のと同じやうにとび出てゐるが、日本人のはほぼ扁平である。(二)ヨーロッパ人のは胸の長さの割合に腕が長い、これも猿と同じである。(三)ヨーロッパ人のは全身に毛が多い、これも動物に近いところである。(四)ワキガは動物の交尾期に現はれる腺分泌と同じものであるが、それがヨーロッパ人には普通にあつて、日本人には少い。

このやうに見て來れば、相貌といふ點では、日本人とヨーロッパ人の優劣については、にわかには判断し得ないのであります。

二、色素 人體の色素は黒や橙色であつて、その色素の質と量によつて、黒人、黄色人、白人といふやうな差ができる。ヨーロッパ人特に北歐人には色素が一般に少く、皮膚が白ばかりでなく、眼の虹彩にも色素が少いために、いはゆる青眼である。これは虹彩そのものが青いのではなく、色素の少い虹彩を通して眼球の内部が見えるためであります。

色素の多少は、また頭髪の色にも現はれます。北歐人の頭髪は淡褐色すなはち金髪なのが多い。これに反して、南歐人ののは、全體に、やゝ色素が多いから頭髪は暗褐色であり、皮膚はあさ黒い。日本人のは、これに對して皮膚は黄色を帯び、頭髪はおほむね黒であり、眼は茶眼か黒眼かであります。

三、眼の特徴

ヨーロッパ人のやうに色素の少いことは或は動物から遠ざかつてゐることを示すかも知れませんが、生活上から見れば必ずしもよいとはいはれません。殊に虹彩に色素の少いことは悪いのであります。少し光が強いと、われ／＼には平氣でられるのにヨーロッパ人は非常にまぶしがるのであります。これは色素の少い虹彩は光を通し易いからであります。日本人の眼のやうに茶眼または黒眼であるのは南洋方面で活動する上に最も都合がよいのであります。

眼について、いま一つ大切なことは、視野の廣さについてであります。視野といふのは、眼を動かさないうで、前方を見つめてゐるときに、眼に見える外界の全範圍をいふのであります。日本人と西洋人とでは、その廣さがちがふのであります。前に述べましたやうに、日本人のは額から鼻への移りぎわが扁平であるために眼球は前の方に出てをり、西洋人の額は額が

とびでてゐるから、眼は奥ふかくぼんでゐます。この解剖學的相違から、日本人の視野は西洋人のよりは廣いのであります。試みに両手を、左右にまつすぐに延ばし、両手の指先を靜かに動かして見ますと、われわれ日本人では眼を動かさないうで前方を見つめてゐても、その指の動きが見えるのであります。すなはち、われわれの視野の廣さは一八〇度であるといへるのであります。しかるに、西洋人では、両手を少し前の方に出して動かさなければ、その動いてゐる指が見えないのであります。そして、この視野の廣いことは、いろ／＼の仕事をするときに、都合がよいことはいふまでもありません。

四、頭髮の形 頭髮の形には、日本人や東洋人の多くのものに見るやうに、横断面が丸い直毛のものから、ヨーロッパ人、イラン人、ヒンヅ人、オーストラリア土人のやうに、多毛民族のもつ横断面の扁平な波状のもの

やアフリカの黒人、アジア東南方のネグリト、メラネシア土人などのやうに、一そう扁平で、強くちぢれてゐるものに至るまで、いろ／＼の種類があります。しかし、直毛とちぢれ毛とのどちらが、優等であるかといふ點になると、容易に斷言は出来ません。それは頭髮は人類だけにある特徴であるからであります。

五、頭の形 頭蓋骨の形は人種によつて異なりますが、その形を表はす値に頭蓋指數といふのがあります。それは頭蓋骨の横徑を縦徑で割つて一〇〇倍した値であつて、その指數が七六以上八一未満のものを中頭とし、それよりも小さい値のものを長頭といひ、中頭よりも大きい値のものを短頭と名づけます。この分類法に従へば、ヨーロッパ人の中、北歐人と南歐人とは長頭であり、東歐人は短頭であり、日本人には短頭のものが多いが、また長頭に屬するものも少くないのであります。それでは短頭と長頭のどち

らが優れてゐるかといひますと、類人猿のは中頭か短頭であるから、その點からいへば長頭がよいやうにもはれますが、ヨーロッパ人が劣等人種と考へてゐる各種の黒人やオーストラリア土人が長頭であり、またアイヌの頭も長頭であることからすれば、必ずしも一概にはいはれないのであります。要するに頭の形からは、今のところ優劣の判断は出來ないのであります。

六、頭の大きさ 頭蓋の形よりも、その大きは一そう大切であります。もつとも頭蓋の大きさは必ずしも脳髓の大きさを、そのまゝに現はすものではありませんが、大體は、頭蓋の大きいものは脳髓も大きいと見てよろしい。そして頭蓋の大きさを見るには、頭蓋容量といふ値によります。それは、頭蓋の縦徑と横徑と頭の高さとの三つの値を掛けあはした積を立方センチを單位としていひ表はします。頭の高さといふのはコメガミのところから、

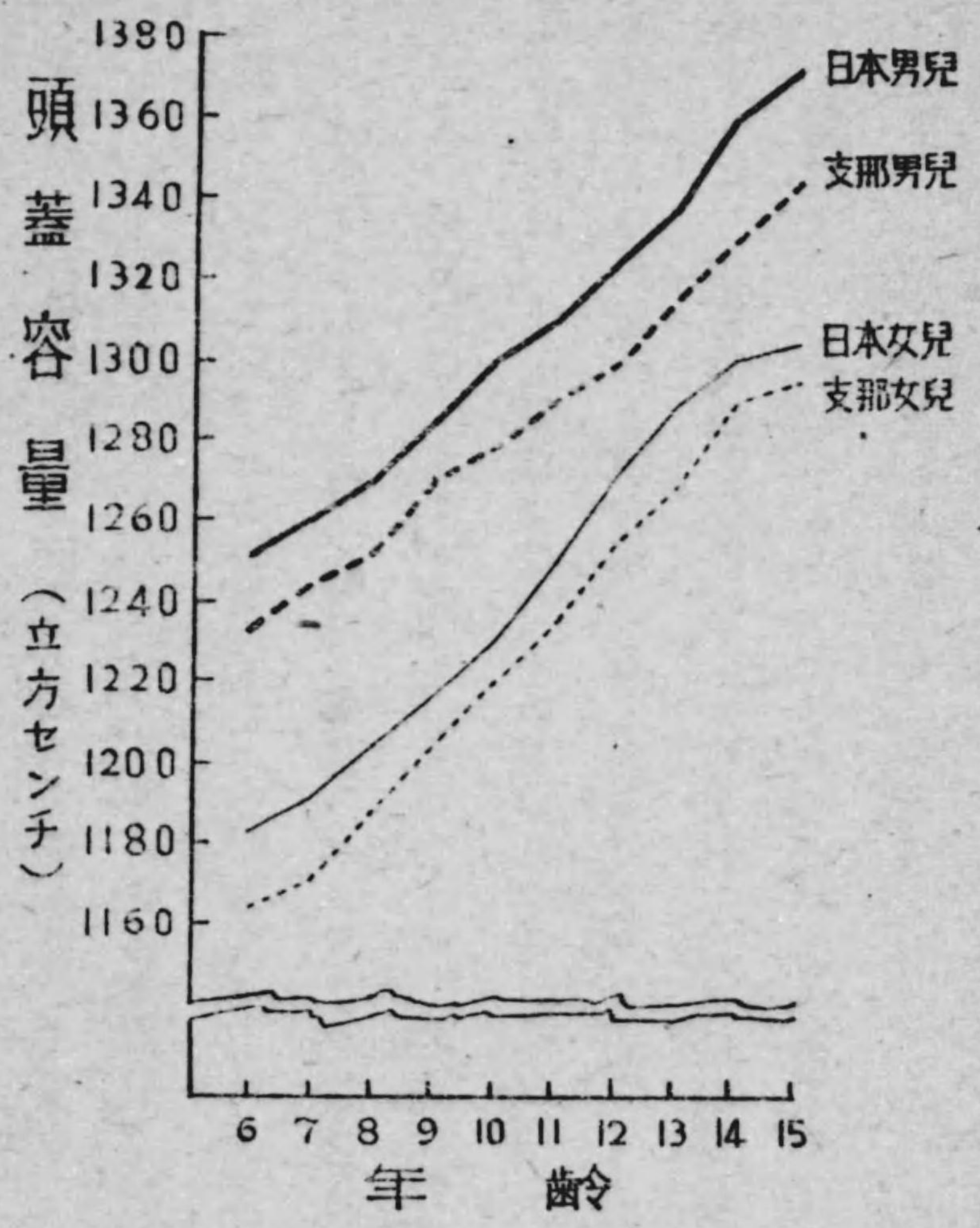
頭のてつぺんまでの距離であります。

日本人の頭蓋容量は他の民族のに比べてどうでありませうか。ハワイ大學のポーター博士は、ハワイにゐる日本兒童と支那兒童の頭蓋容量について比較してゐますが、その結果は、どの年齢でも日本兒童のが大きいといふことになつてゐます(第一圖)。なほ、ポーター博士は、アングロ・サクソン人の兒童についても、測定してゐますが、家庭の經濟状態の等しいものであれば、十五歳までは日本人兒童のと等しい大きさで、十五歳以後には日本人のが優れる傾向があるといふことを報告してゐます。

このやうに、頭蓋容量の絶対値において日本兒童のが優れて大きいといふことは體重のことを考へると一そうその優れ方の著しいことを示すことになりす。一體、頭蓋容量は體重と密接な關係があつて、體重の重いものは頭蓋容量も大きいのであります。ところが、體重を比較すれば日本人

のよりはヨーロッパ人および支那人の重いのであるから、日本人の頭蓋

第1圖 日本兒童および支那兒童の頭蓋容量の比較



人は身體が小さいのに頭蓋容量の大きいことは日本人の優れ方を一そう著

容量は彼等のよりは少く、然るべきであるのに、右に述べたやうな結果であつたので、ポテアス博士も「日本

しくする」といつてゐるのであります。

七、腦の重さ 前に述べましたやうに、頭蓋容量は、必ずしも腦の大きさを代表しない。それは頭蓋骨の厚さと、骨と腦との間にある腦漿といふ液の分量とが人によつて異なるからであります。しかし、大體は頭蓋容量の大小で腦の大きさを推定し得るのであります。しかし、それよりも腦そのものを直接に測ることが、民族の比較をする上には大切であります。たゞ、それは生きて人間についてはできないことであるから、死體の腦をとり出して、その目方を測るのであります。東京帝國大學腦研究所で發表してゐるところによりますと、日本人の腦の重さに關する研究が六種類ありますが、今、それ等の研究における腦重の平均を求めると、男子のが一三八三グラム、女子のが一二四四グラムとなります。

ところが、ヨーロッパ人の腦重に關する研究が十五種類あつて、それ等

の平均を見ると、男子のが一三五六グラム、女子のが一二二七グラムでありまして、男女とも日本人のよりは軽いのであります。すなはち、男子において二七グラム、女子において一七グラムだけ日本人のが重いことになります。これだけの差は、あまり大きい差とはいはれませんが、しかし脳重についてはつぎのことを考へて見る必要があります。廣く動物界を見ますと、脳重が體重と密接な関係があるといふことを認めなければなりません。第一表はブラット氏の調査の結果であります。これによると、哺乳動物では大體、身體の重いものほど脳重は重いことになつてゐます。このことを人間の場合に當てはめて見ますと、日本人はヨーロッパ人よりは身體が小であり、従つて體重も軽いのでありますから、日本人の脳重はヨーロッパ人のよりは軽くて然るべきであります。それにもかゝらず、わづかではあるが、かへつて日本人の脳重が重いのは驚くべきことであるとい

第1表 哺乳動物の脳重
(ブラット氏調査)

動物名	脳重(グラム)
はつかねずみ	0.4
うさぎ	9
ねこ	32
いぬ	50—100
ライオン	200—250
ゴリラ	425
くちら	3,000—3,500
ぞう	4,500—5,400

はなければなりません。

脳重の重いといふことは、

頭の働きがよいといふことを

示すとおもはれますのは、白

痴の脳重が軽いのに對して偉

人といはれるほどの人々の脳

重が一般に重いといふ事實か

ら大體推定されます。すなはち、わが國の白痴のは平均して一一五〇グラムくらゐで常人の平均よりは遙かに軽いが、桂太郎公爵のが一六〇〇グラム、三宅恒方博士のが一五五〇グラム、澤柳政太郎博士のが一五〇五グラム、濱口雄幸氏のが一四九五グラム、三宅やす子女史のが一四四五グラムといふやうに偉人の脳は常人のよりは非常に重かつたのであります。

もつとも脳重は常人のと、ほとんど等しくて偉大な人物もあつたのであります。これは脳重だけでは、賢さの表徴にならぬことを示すものであつて、やはり、脳に山や谷が多くて構造の複雑であるといふことが大切なのであります。有名なガウスといふ天文学者の脳重は一四九五グラムで、もちろん常人のよりはかなり重かつたのですが、その上に、しわが澤山にあつたといふことであります。このやうに、しわのことを考へる必要がありますが、單に脳の重さだけをしらべても大體は優劣の推定が出来るのであります。その優秀性を示すとおもはれる脳重において、日本人のは絶対値を較べてもヨーロッパ人のよりは重く、さらに體重との關係からすれば、著しい優差を示すと考へられるのであります。

これまでに述べたところを總括して、日本人の解剖學的特徴の中で、そのすがたについていへば、日本人の劣つてゐる點もあり、また優れて

ゐる點もあつて一概に優劣の品さだめをすることは出来ませんが、虹彩に色素の多いこと、頭蓋容量の大きいこと、および脳重の重いこと、特に最後のものは日本民族の優秀性を示すものであるといつてよいのであります。

三、身體の大きさ

一、身長 日本人は世界の諸民族の中で、身體の小さい方でありませぬ。デニカー氏が明治三十三年に報告してゐるところでは、十四ヶ國のヨーロッパ人壯丁の平均身長は一六七・一センチであるのに對して、日本人のは一五八・五で、八・六センチの差をもつて日本人が低いことになつてゐます。

日本人はこのやうに身長が低いのでありますが、それでは身長の低いので

は劣等なことを示すのであるかといへばさうではありません。一體に身長
の大小は何にも人種の優劣のしるしではないのであります。身長の高いこ
とをいひますれば、アメリカ・インド人やアフリカのニロート族のやうに劣
等民族で、ヨーロッパ人の中で最も身長の高いスウェーデン人よりも、さら
に高いものもあるのであります。われわれ日本人の身長の高いのは生れつ
きにもよりますが、また生れて後の環境の影響にもよるやうであります。
それは、(1)田舎のものよりも都會に育つたものが身長が高くなる傾向があ
り、(2)同じ日本民族でもアメリカで育つものは、日本内地のものよりも身
長が高く、また(3)内地においても、過去二、三十年間に児童生徒の身長も
體重も、著しく増加してゐることなどから推定されるのであります。

身長は、このやうに或る程度までは環境の影響によつて變化するのであ
りますが、しかし、身長がのび従つて體重が増しても、その身長や體重の

意味が明らかにならなければ、その増したことが喜ぶべきことかどうか
は、これをたしかにいひ切ることは出来ません。野蠻人の中にも身體の極
めて大きいものがあり、また、同一民族の中にも身長の長短があり、體重
にも輕重の差があります。そして、身長が高く、體重の重いものが、必ず
しも頑健で、賢く、働きが優れてゐるとは限らないのであります。

例を偉人の場合にとつて見ませう。わが國においては昔から偉人が必ず
しも偉大な體格をもつてはゐませんでした。武人では坂上田村麿と豊臣秀
吉とは大きいものと小さいものの好い一對であります。現代においても、
注意して見れば、このやうな例は少なくないであります。

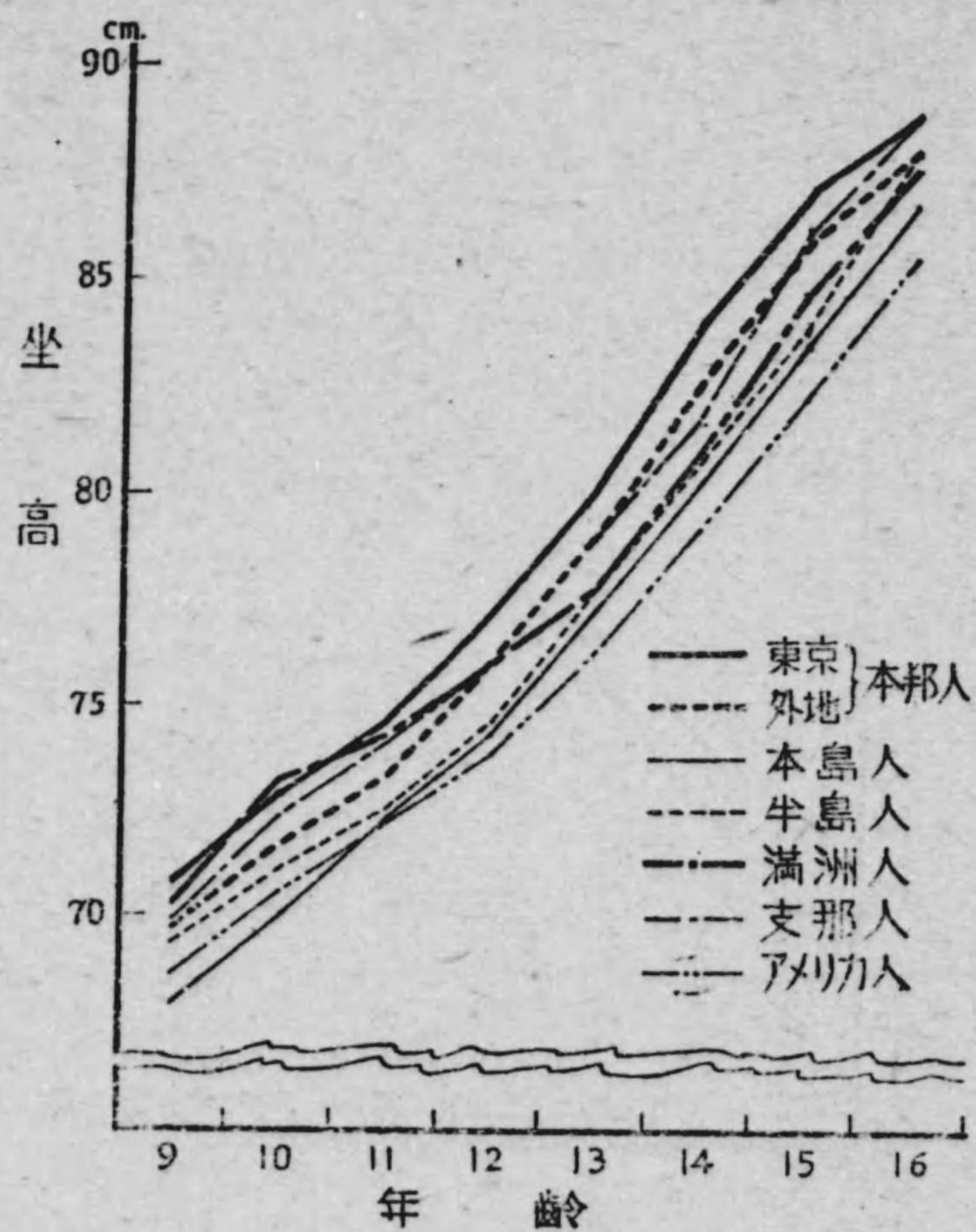
そして、このことは日本だけでなく、西洋でも、一方には、カール大
帝、ビスマルク、ダ・ヴィンチ、ゲーテ、シルレル、ヘルムホルツなどのや
うに大きい體格の偉人があつたかとおもへば、他方には、アレキサンダー

大王、ナポレオン、フリードリッヒ大帝、ラファエル、バッハ、モーツァルト、ベトーヴェン、カント、フィヒテ、ライプニッツなどのやうに、體格の小さい偉人もあつたのであります。このやうに、身體の小さい偉人は、ただ脚が短いだけで、胴は長かつたのだといふ人があります。これは非常に興味のあることでありまして、私も大正十三年から身體検査法の中に坐高の測定を入れなければならぬといふことを主張したのであります。數年前から、そのやうになりましたことを、身體検査法の一大進歩として喜んでゐるのであります。

二、坐高 一體、坐高が含む胴はその中にわれわれの生活を維持し、かつそれを發展させるために必要なあらゆる器官が備つてゐるので生理學的に見て大切なところであります。その上に私の考ではこの坐高といふところは生物學に見て眞の意味の身長であるとおもふのであります。それは、

われわれが四足獸の身長を知るにはどこを測るかを考へて見ればわかることでもあります。

第2圖 諸民族の坐高(男)



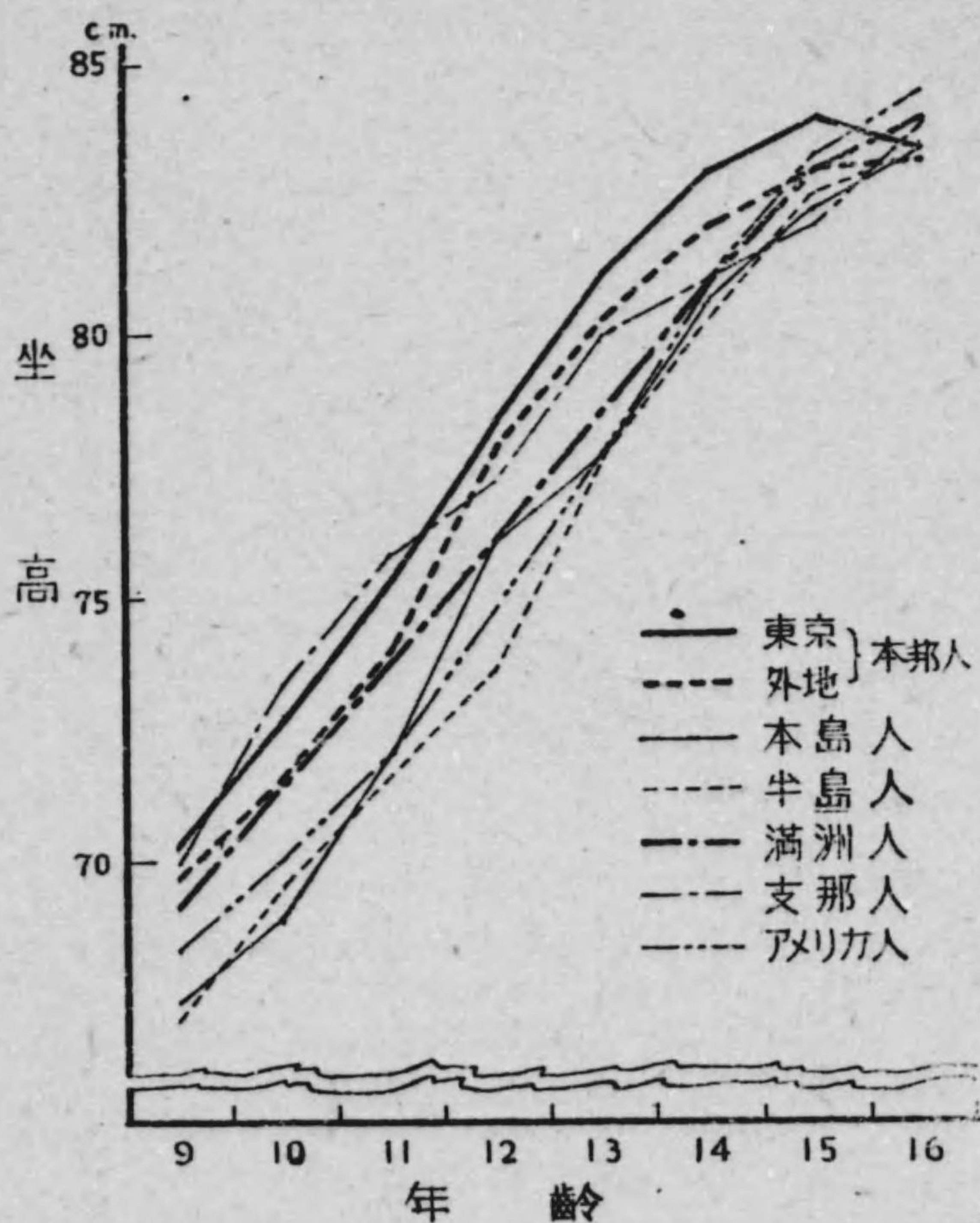
さて、それでは、この大切な坐高において、日本人はどのやうな位置を占めてゐるでせうか。私は、東洋における諸民族の

第2表 諸民族の坐高 (単位cm)

民族 地方 年齢	本邦人		本島人	半島人	満洲人	支那人	アメリカ人	
	東京	外地	臺灣	朝鮮	満洲	北支	シカゴ	
〔男〕	10	72.8	71.7	70.1	71.1	73.0	72.4	70.6
	12	77.1	76.0	74.4	74.7	75.8	75.8	73.8
	14	84.0	82.4	80.4	80.9	81.0	81.9	79.2
	16	88.7	87.9	87.7	87.9	87.5	88.8	85.4
〔女〕	10	72.7	71.4	69.0	69.1	71.4	73.1	70.1
	12	78.3	77.8	76.2	73.8	76.2	77.4	74.9
	14	82.9	82.0	80.6	80.3	81.0	80.9	81.0
	16	83.7	83.2	83.4	83.5	83.9	83.8	84.5

のは外地および外國といふのが適當であつて、臺灣の臺北、臺中、臺南の三都市、朝鮮の釜山、大邱、京城、平壤の四都市、満洲の奉天市、關東州の大連、旅順の二都市、北支の北京、天津、濟南、青島の四都市の小學校児童および中等學校生徒について測つたもので

第3圖 諸民族の坐高(女)



圖および第三圖であります。なほ、一部分の數値は第二表にかゝけておきました。本邦人については東京のと外地のがあります。こゝに外地といふ

坐高を測つたのであります。が、その結果とシカゴのアメリカ人についてスエドレ博士の測つたものとをグラフにゑがいたのが、第二

あります。

第二圖、第三圖および第二表によりますと、本邦人と諸他の民族との間には著しい差はありませんが、十六歳級で北支の支那人男女のが本邦人のと大體等しく、同じく十六歳級でシカゴのアメリカ人女子のが本邦人のを凌いでゐる例外を除けば、大體において本邦人のが優れてゐると見てよろしいやうであります。こゝで興味のあるのは、身長においてアメリカ人よりも著しい差をもつて劣つてゐる日本人は、その坐高においては、このやうに優れるか、或はほぼ等しいといふことであります。これによりますれば、日本人の身長のは下肢長の短いことによると考へられます。實際にヨーロッパ人では全身長を一〇〇とすれば、それに對して下肢長は男女ともに五四であるのに、日本人のは男女ともに五一であります。すなはち、日本人の身體の構造は坐高が比較的長くて、下肢が短いといふ特徴を

もつてゐるのであります。

それでは、このやうな身體のつくり方は、よいのであるか、どうか。前に述べたポーターアス博士は、日本人のやうに胸が長くて、下肢の短いのが、現代および將來の社會生活に對して、理想的なのであるといつたのであります。實際に、下肢は長いよりも短い方が歩むにも、走るにも、泳ぐにも、速くて耐久的なのであり、また、立つて仕事をするときには、下肢の短い方が、動搖が少いために疲勞が少いのであります。

つまり、日本人の身體の大きさは全體として小さい。すなはち、身長は低く従つて體重も軽いのであります。けれどもそれ等の諸方面もいろいろの環境の改善によつて、今よりは多少増すであらうとおもはれる事實があります。しかし、長く、太く、重いのが必ずしもよいとは限りません。それは、どのやうな形の身體が理想的なのか、その點がまだ明らかになつてゐ

ないからであります。それに對していへば、坐高の長いことは、生理學的に見てよいことであり、そして、その坐高においては、日本人は諸民族の中で、長い方に屬するのであります。なほ、日本人の身長の高いのは、下肢長の短いことによるのでありまして、しかも、それが、かへつて活動する上に、よいのであると考へられるのであります。たゞ身長の高いものは、その低いものを、見おろす氣もちをもち、反對に身長の高いものは何となく、ひけめを感じがちであります。右のやうな事實をわきまへておますれば、身長の高いものに對しても、すこしも劣等感をいだかなくてよいのであります。

四、身體の働

身體の形や、すがたよりも、一そう大切なのは、その働であります。も

ちろん、頭の大小、坐高や下肢の長短といふやうなことが、基になつて身體の働の優劣をもたらすことはありますが、それよりも、直接に身體の働そのものを測つて、その結果について比較して見るのが、民族の優劣を知る近道であります。

こゝに、身體の働といふのは、一部分は、筋肉や腱の状態、關節がよく動くか、どうかといふやうな身體の特徴により、一部分は、精神の働によるもので、たとへば、重いものをもちあげるとか、機械器具を取扱ふといふやうな仕事をする場合の働で、普通に精神身體的の働と名づけるものがあります。そして、それ等は、力、速さ、器用さの三つにわけて考へるのが便利であります。

一、體力 體力の代表として、肺活量と握力とについて見ませう。

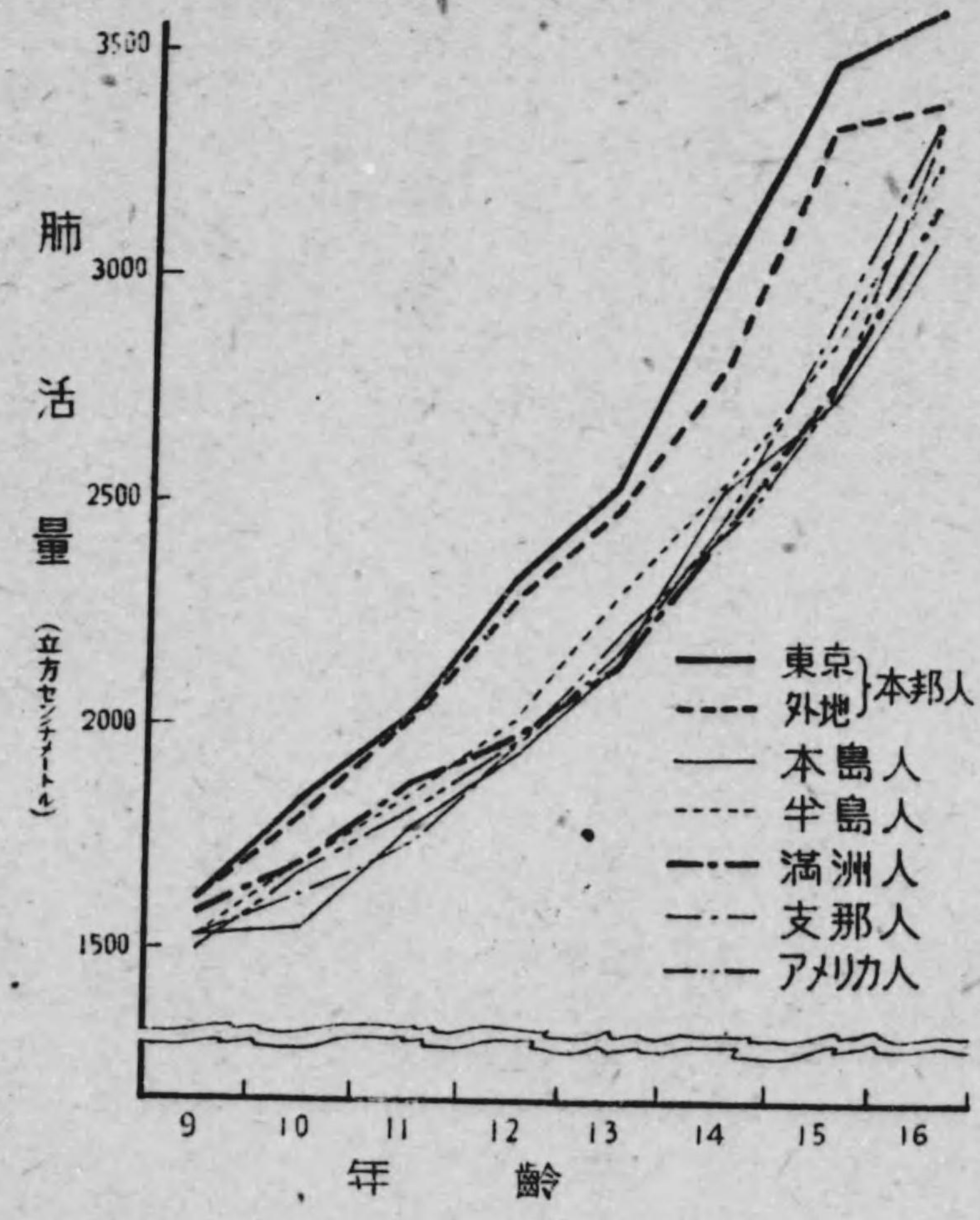
(1) 肺活量 肺活量は十分に空氣を吸ひこませておいて、それを全部肺活

量計にはき出させて、その分量を測つたものであつて、いはゞ肺臓の容量で

あります。

従つて、その容量の大小は、吸入し得る酸素の分量の多少を示すのでありますから、肺活量の大小は、やがて

第4圖 諸民族の肺活量 (男)



身心の活動力の多少を示す指数になるのであります。もつとも、酸素は不潔な血液を洗つて、きれいにする役目をもつてゐますから、身體の大きいものは肺活量が大でなければならぬし、身體の小さいものは、肺活量が小であつてよいのであります。すなはち、肺活量は、身體の大小、従つて體重の輕重と密接な関係があるのであります。このことからすれば、身體の小さい日本人の肺活量は小さいであらうとおもはれるのでありますが、實際はその豫想を裏切つて諸民族に較べて、肺活量は大きなのであります。第四圖および第五圖は私が東洋諸民族について測定したものとスメドレー博士がシカゴのアメリカ人について測つたものとの比較圖であります。被験者は第一表の場合にのべたのと同じであります。第四圖および第五圖によりますと、どの年齢級でも男女とも本邦人のが多いのであります。今これを男子十六歳級の場合について立方センチメートルを單位としていひます

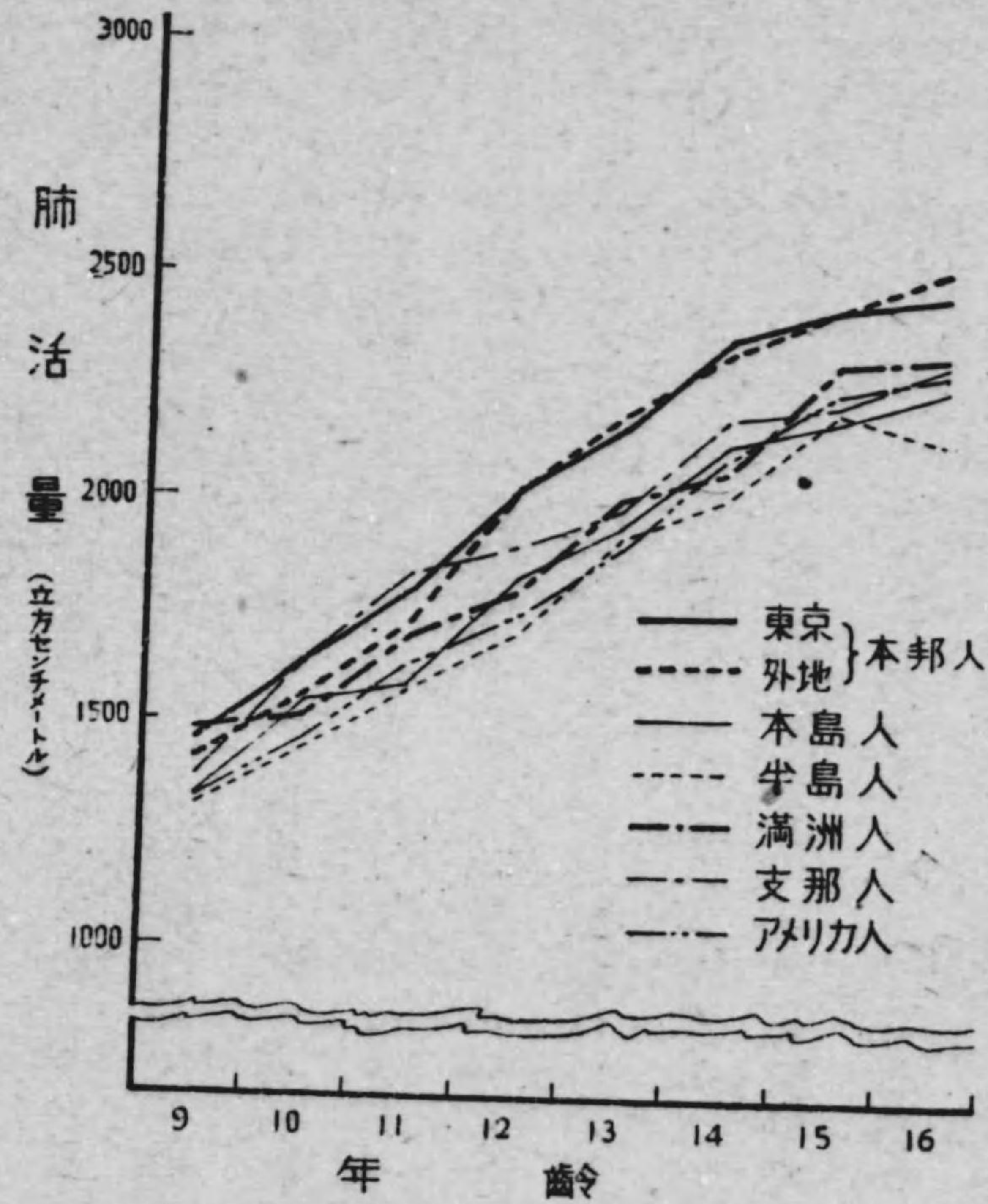
第3表 諸民族の肺活量指数

$$\text{肺活量指数} = \frac{\text{肺活量(c.c.)}}{\text{體重(kg.)}}$$

民族 地方 性	本邦人		本島人	半島人	満洲人	支那人	アメリカ人
	東京	外地	臺灣	朝鮮	満洲	北支	シカゴ
男	67.0	65.5	63.4	64.6	62.2	57.0	61.9
女	55.7	55.1	50.6	52.1	54.4	...	52.1

して、十六歳級のものについていひますと、東京の本邦人二四五八、外地の本邦人二五一六、本島人二二六一、半島人二一五六、満洲人二三五〇、支那人二三四二、アメリカ人二三〇〇であります。なほ、前に述べましたやうに、肺活量は體重と密接な関係があるので、今キログラムを単位とする體重に對して立方センチを單位とする肺活量の比（これを肺活量指数と呼ぶ）を求めますと、どの年齢級でも、ほとんどの値が得られます。今そのやうな値を計算して、民族別に九歳

第5圖 諸民族の肺活量 (女)



と、東京の本邦人三六〇四、外地の本邦人三四一四、本島人三〇九〇、半島人三二六五、満洲人三一九三、支那人三三四八、アメリカ人三三〇〇であります。女子の場合も、大體同じ關係であります。

級から十七歳級までのものの平均を出して見ますと、第三表に示すやうになります。第三表によりますと、男女ともに、割合に著しい差をもつて本邦人の肺活量指數が他の諸民族のものよりも大であります。(同表において支那人女子のものを缺くのは、彼等の體重について正確な測定値が得られなかつたからであります。)

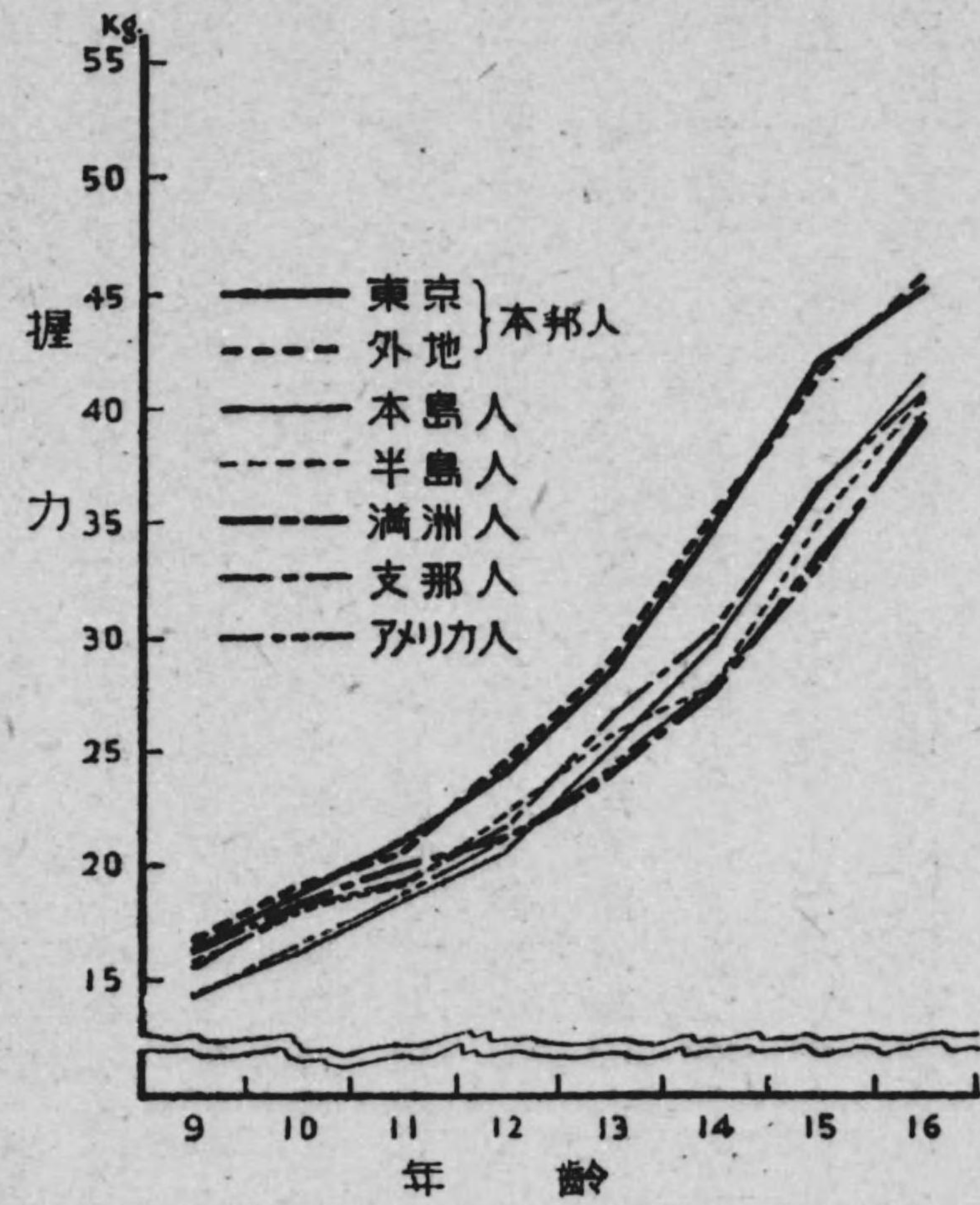
以上、絶対肺活量と、體重に關係させた肺活量指數とについて比較したところによると、日本人はどの民族よりも、肺活量において優れてゐることがわかります。これは何に基づくかといひますと、おそらくは一部分は意志の力の大小といふことにもよるでありませうが、主として日本人の腹筋力が大なためであらうとおもはれます。この腹筋の力は特に女子にあつては大切なもので、腹筋力の大なものは一般に安産であります。こゝに、將來の體育法において、大いに力を入れなければならぬところがあるやう

に考へられられるのであります。すなはち、一方には、肺活量を大にするため、他方には、女子において安産の率を多くするために。

(2) 握力 人の體力を測る方法の中で最もたやすく、割合によく全身の力を代表するものは握力であります。それは、握力計のにぎりを全力で握らせ、針の動いた距離で、キログラムを單位とする力を見ることになつてゐます。握力計にもいろいろありますが最も便利なのはスメドレー博士の考案になるもので、私も、それによつて東洋諸民族の右手および左手の握力について測定したのであります。測り方は、まづ右手からはじめて、右左、右左の順に、大體三回づつ測つて、なほ力が増すやうであつたならば、四回、五回とくりかへして測り、その中の最大記録をとつて、一定個人の握力を代表させるのであります。

このやうにして、得た結果の中、右手についての民族別、男女別の年齢

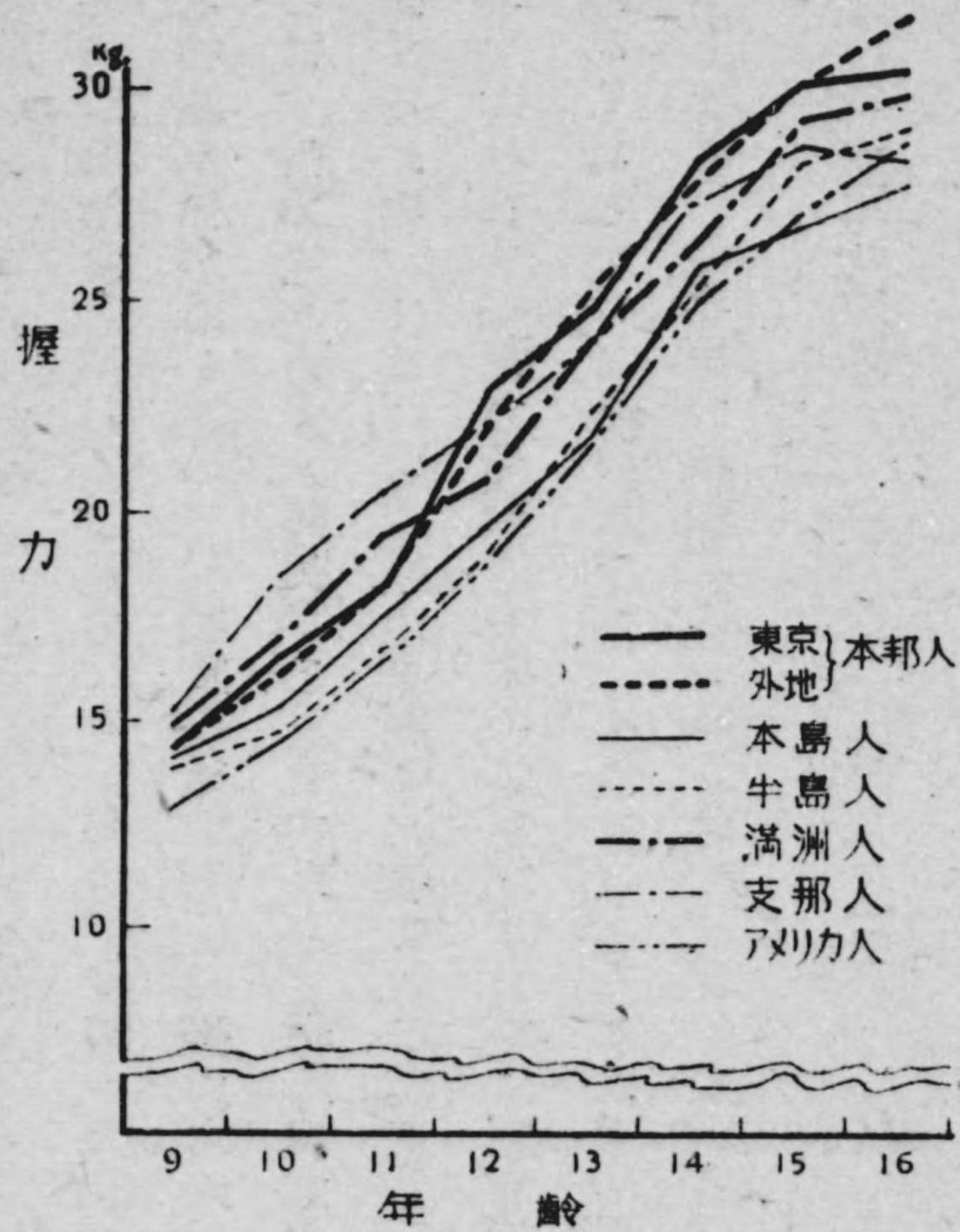
第6圖 諸民族の右手握力 (男)



による變化を示したものが第六圖(男)および第七圖(女)であります。これ

等の圖には、シカゴのアメリカ人についてスメドレー博士の測定した結果をもあはせて描いてあります。これ等の圖によ

第7圖 諸民族の右手握力 (女)



りますと、何れの年齢級においても、日本人の握力が男女とも他の民族の

ものよりも優れてゐます。これは、右手の握力についてであります。が、左手についての結果も、大體同じであつて、やはり

日本人のが最大であります。

ところが肺活量と同じく、握力においても、身體の大きさ、或は體重と密接な相関々係があるもので、體重の重い人は、握力は大、また體重の軽いものは、握力は小といふ關係がありますから、絶対握力よりも握力の體重に對する比率、すなはち、握力指數を比較するのが正しい比較法であらうとおもはれます。握力指數は右手および左手または左右握力の和についても求められるわけですが、こゝには、たゞ右手の握力指數を見ることとします。右手握力指數は次の如き公式によつて算出します。

$$\text{右手握力指數} = \frac{\text{右手握力 (kg)}}{\text{體重 (kg)}} \times 100$$

今、諸民族の九歳級から十七歳級までのものについて、右の如き公式を適用した結果の平均を出しますと、第四表のやうになります。

第4表 諸民族9歳級から17歳級までの右手握力指數の平均

民族 性別	本邦人		本島人	半島人	滿洲人	支那人	アメリカ人
	東京	外地	臺灣	朝鮮	滿洲	北支	シカゴ
男	74.9	77.4	74.2	73.0	69.9	66.0	68.5
女	62.7	63.0	62.1	60.6	63.3	...	58.1

第四表によりますと、絶対握力における比較の場合と同じやうに、男女とも日本人の握力指數が最大であります。その中でも外地におけるものが東京のものよりも一そう大であります。かくて、握力は、その絶対値においても、また體重に關係させた相對値においても、日本人が最も優れてゐることになります。なほ、握力は、單に筋肉の力といふよりも、もつと精神的の意味のあるものであります。これを智能に關係させていひますと、智能の劣等なもの、握力は小であり、智能の優れたものは握力は大であるといふ關係があります。フラン

第5表 諸民族の左右握力の差異 (単位kg)

民族 地方 年齢	本邦人		本島人	半島人	満洲人	支那人	アメリカ人	
	東京	外地	臺灣	朝鮮	滿洲	北支	シカゴ	
〔男 子〕	9	1.2	1.2	1.0	1.3	0.9	0.9	0.8
	10	1.5	1.3	1.0	1.5	1.0	1.6	0.9
	11	1.7	1.7	1.4	1.3	1.2	1.0	1.2
	12	1.9	2.0	1.4	1.7	2.2	1.2	1.5
	13	2.5	2.1	2.2	1.8	1.7	1.8	1.9
	14	1.8	2.7	2.8	1.2	2.2	1.4	2.2
	15	3.1	3.7	3.3	2.6	3.1	2.6	2.5
	16	4.3	3.1	3.5	2.7	3.0	2.9	3.0
17	4.0	5.2	3.9	3.3	3.0	2.7	3.7	
平均	2.44	2.56	2.28	1.93	2.03	1.79	1.97	
〔女 子〕	9	1.0	1.4	1.5	1.5	0.8	1.4	0.8
	10	1.4	1.4	1.1	1.1	0.9	1.0	1.0
	11	1.1	1.7	1.5	1.5	1.6	1.7	1.0
	12	2.2	1.2	1.7	1.7	0.9	1.7	1.1
	13	2.4	2.7	1.8	1.9	2.0	1.5	1.4
	14	3.3	3.0	2.3	2.3	1.8	1.7	1.9
	15	3.3	3.3	2.1	2.8	2.4	2.6	2.1
	16	3.6	3.6	1.7	2.8	1.7	1.4	2.1
17	3.7	4.0	0.4	2.8	2.2	3.1	2.2	
平均	2.44	2.48	1.57	2.04	1.60	1.79	1.51	

スのビネーは握力についての研究の結果「低能者は二つの左手をもつてゐる」といひました。多くの人では、左手は力の弱いものであります。二つの左手をもつてゐるといふことばの中には、低能者では右手の握力が正常なもの、左手のやうに弱いといふことと、右手と左手の握力の差が少いといふ二つの事柄を含ませてあります。私は、前にかゝげた諸民族の握力について、各年齢級ごとに、左右握力の差を求めて第五表の如き結果を得ました。

第五表を見て氣のつくことは、どの民族でも大體は年齢とともに、左右握力の差が著しくなつてゐることと、民族によつて、その差の大きさが異るといふこととであります。これを本邦人について見ますと、東京のものと、外地のものとの間にはほとんど差がなく、全く等しいといつてよい有様であります。そして、これを他の諸民族のと較べると、男子も女子もと

もに左右の差が大きいのであります。

一體に、動物は左右の力の差のないもので、人間に最も近いと考へられてゐる猿でも兩ききであります。また、人間の子供も幼いときには、きき手といふものがないが、大きくなるにつれて、きき手があらはれます。そして第五表に見るやうに、兒童期から青年期を通して、年齢とともに左右の力の差が著しくなるのであります。左右の力の差が著しくなるといふことは働が分化することであつて、發達の一つのすがたを示すのであります。かういふ考に従ひますと、左右握力の差の最も著しい日本民族は、最も發達した民族であるといへるのであります。このことは、顔が猿に似てゐるかどうか、顔面角度が大きいか小さいかといふやうな、形の上から判断することよりも、一そう大切なことであるとおもふのであります。

なほ、左右の働きに關係して興味のあることは、左ききの現はれる人數

の割合が民族によつて異るといふことであります。ポーター博士の調査によれば、成人一〇〇人中、左ききの現はれる人數は日本人一四、ヨーロッパ人一七、支那人二一、ブッシュマン二四、オーストリア土人三四、アフリカの黒人中ムチヨビ族三九、シャングインヌ族五七、といふことになつてゐます。日本人に左ききが少いことは前の左右の力の差が日本人において、最も著しいこととともに、日本民族の優秀性を示す材料であらうとおもはれるのであります。

こゝで、少しく左ききのことについてつけ加へておきます。左ききのものは、頭が悪いとか、器用であるなどといふものがありますが、これは、まだ證明されてはゐないことであります。左ききのものが器用だといふのは、或は左甚五郎が左ききであつて、しかも立派な彫刻をしたといふやうな傳説に基づくこともあり、また左ききの人の仕事ぶりを見てゐると、正

常人には不得手な方の手を用ひるのであるから、きつと拙い仕事をするであらうと期待してゐるとき、出来あがつたところは、この豫期に反する出来ばえであるので、案外器用だといふことから、左き、は一般に器用だといふやうになつたのではないかとおもはれます。それはともかくとして、左右の力の差が著しければ、働が分化してゐると認められるのであります。従つて、左き、が不名譽でも何でもありません。しかし、現代、われわれの用ひる器械器具等が、すべて右き、のものに都合のよいやうに作られてゐますから生活上、作業上は右き、であることが望ましいのであります。それゆゑに、左き、の子供については、幼いときから、これを矯めるやうに訓練することがよいのであります。はげしい左き、だと、むりに矯めようとしますと、どもりになることがありますから、注意しなければなりません。矯めるにしても、少しづつ漸を追うて行ふべきであります。

以上、握力について見たところをつゞめていへば、絶対握力においても、また體重に關係させて見た握力指數においても、さらに進化の度を示すとおもはれる左右握力の差においても、日本民族は他の民族よりも優れてゐるのであります。そして、握力は或る程度まで智能とも關係し、さらに、意志作用とも關係をもつてゐると考へられるので、この握力において日本民族が優れてゐることは、單に力量において優れてゐるといふこと以上に深い意味のあるものであります。

二、速さと器用さ　今までのところで、精神身體的の働の中の力量について述べましたから、これから精神身體的の働の第二の速さ、第三の器用さについて話を進めます。これ等の働は常に相伴ふもので、なか／＼區別はつけられません。両方ともにわれ／＼の日常生活、産業生活において、その關係するところが廣く、そして現代生活の多くの場合には力よりも速

さ、器用さが一そう重要なのであります。

一枚のはがきを書いて、それをポストに入れ、集配人が郵便局にもつて
歸り、局員がスタンプをおし、それを宛名の場所によつて分類し、さら
に配達夫によつて、それ／＼配達せられるまで、運動の速さと正確さを要
しないところはなないのであります。その他工場の作業、電車の運轉、飛行
機の操縦、射撃、電信の發信、裁縫、手藝等をするに、さらに、スポー
ツにおける走ることに、泳ぐこと等の場合を考へますと、運動の速さと器用
さが、如何に大切であるかがわかります。もつとも現代の多くの仕事で
は機械を用ひますが、いくら機械を利用しても、作業者の速度と器用さの
必要は決して少くならないのであります。速くて器用なものがやります
と、電車の運轉がなめらかに、そして速く、しかも事故の起ることが少い
のであります。また、手工品を作る場合はもちろんのこと、機械を用ひて

仕事をするときに、器用なものがやりますと、よい品物が出來、不器用な
ものがやれば、悪い品物が出來るのであります。支那事變の前には、日本
製の綿布が、世界中にはびこつて、この方面での大先輩であるイギリスの
製品を壓倒したことは人の知るところであります。これにはいろいろの原
因がありますが、價が安くて、品物がよいといふことが最大の原因であ
ります。價の安いことに對しては、勞銀が安いことにもよりますが、一つは
日本人の働がよいことにもよるのであり、さらに品物がよいことについて
は、日本人の働のよさが大いに關係してゐます。それは、どの國でも綿
布を織る機械は、わが豊田佐吉氏の工夫した自動織機を用ひてゐるのであ
りますから、用ひる機械は大體同じであるのに日本の製品がよいといふの
は、日本人がすぐれて運動が速く、器用であるためであらうとおもはれる
のであります。

手工品や機械によつて作った品物の出来ばえや、日常の行動を観察しますと、日本人は器用で、動作が速いといふやうにもはれます。しかし、われ／＼が、同胞の働について観察するときには、ともすれば、これをよく見過ぎたり、反對に悪く見過ぎたりして、正當な判断をくだすことが困難なものであります。殊に、外國人の日常動作などについて直接に観察する機會の少い場合には、優劣がはつきりわからないものであります。そこで、果して、それ等の働において日本人が優れてゐるかどうかは、實驗に訴へて見るのがよいのであります。

幸ひに、アメリカのキヤムベル氏がカリフォルニアにゐる日本人第二世およびアメリカ人の中學生と大學生とについて、速さと器用さとを同時に検査し得る如きテストで實驗をした結果を報告してゐます。用ひたテストは、シーショーア氏テストと、マイルズ氏テストの二種で、兩方とも、六個

づゝのテストからなつてゐるものであります。

まづ、シーショーア氏テストで検査した結果をいひますと、中學生の場合には六個のテストの中、一つでは優劣が確かでなく、他の一つではアメリカの方が優れてゐますが、残る四個のテストでは、斷然日本人の方が優れてゐるのであります。すなはち、一對四で、日本人が速くかつ器用であるといふことになりす。

大學生の場合は、そのやうに、はつきりとした結果が出てゐません。六個のテストの中、一つは比較すべきアメリカ人の成績がないので、これを除かなければならない、また他の一つは優劣を定めがたいことになつてをり、残る四個の中、二個ではアメリカ人が、他の二個では日本人が優れてゐます。従つて大學生の場合は五分五分といふことになるのであります。

つぎに、マイルズ氏テストの結果を見ますと、中學生も大學生も、とも

に六個のテストの中、たゞ一個だけにおいてアメリカ人が優れ、他の五個においては、日本人がすぐれてゐることになつたのであります。すなはち、五對一で日本人がまさつてゐるのであります。

以上、實驗の結果を総合しますれば、日本人は運動の速さと、器用さにおいて、アメリカ人に對して劣る場合よりも優れる場合の方が多いといへるのであります。そして、それは、われ／＼が日常の行動を観察して推定したところと一致するのであります。

これを要するに、日本人は身體は小さいけれども、その働は、極めて優れてゐるのであります。これを第一に力についていへば、活力の源泉と認められる肺活量は他の民族にくらべて、男女ともに絶對値においても、肺活量指數においても優れてをり、また、全身の力量を割合によく代表するところもはれる握力の絶對値も、握力指數も、ともに諸民族よりも優れてを

り、さらに、發達の度を示すと考へられる左右握力の差異においても、また日本人は最もすぐれた民族であります。

第二には、運動の速さと器用さにおいても、また諸民族に對して優れてゐます。それは日常觀察による推定だけでなく、アメリカにおける實驗の結果によつて證明されてゐるのであります。

第三章 日本民族の精神的特徴

前の章では、日本民族の身體について述べましたが、これから、人間の働の中で、最も大切な精神の方面を考へて見ませう。精神の働には、いろいろありますが、まづ智能について考察します。

一、日本民族の智能

一、従来の研究 日本民族の智能については、アメリカやカナダで實驗的に調べられたものが多いのでありますが、その結果では、日本民族はかなり優れてゐるといふことになつてゐます。

(1) ダーシーの研究 第六表は、カリフォルニア州のサンフランシスコ、オクラホマおよびロサンゼルスの大都市における諸民族の智能について

ダーシー博士が実験した結果であります。用いたテストはビネー法であつて、それは問答によつて、検査する方法であります。すなはち、実験者があらかじめ定めてある順に、ことばで問題を出し、被験者は主として口答

第6表 カリフォルニアの3都市における諸民族の智能 (ダーシー)

民 族	智能指数
日 本 人	99.2
北 歐 人	100.3
フィンランド人	90.0
ス ラ ブ 人	85.6
南イタリア人	77.5

するものでありまして、その結果をば智能指数でいひ表はすやうになつてゐます。智能指数を出すには、まづ精神年齢を定めます。それは豫め定めてある標準にぞらして、答の正しいかどうかを見て、どこまで正しく答へられたかによつて、精神年齢何歳何ヶ月といふことをさめます。さらに、その精神年齢を實際の年齢、すなほち生活年齢で割つて、それを一〇〇倍した値が、こゝにいふ智能指数であります。た

とへば、生活年齢一二〇ヶ月の兒童の精神年齢が一四〇ヶ月であつたとすれば、その智能指数は

$$\frac{140}{120} \times 100 = 116$$

すなはち、一一六といふことになります。智能指数は、一〇〇を中心として、その近くの値のものを普通とし、それ以上だと、智能がすぐれてをり、それ以下だと、劣つてゐるといふやうに解釋するのであります。

さて、第六表には、このやうにして出した智能指数の平均を示してあります。これによりますと、日本兒童は他の多くの民族に比べては、優れてゐるが、たゞ北歐人に對しては、やゝ劣つてゐることになつてゐます。ところが、この検査をしたダーシー博士は「ビネー法はことばの力を必要とするのであるが日本兒童はイギリス語が下手であるから、このテストではよほど不利の地位におかれる」といつてゐます。そして、その後三崎氏

が日本兒童について日本語とイギリス語との兩方でテストした結果によりますと、日本語でテストした方が精神年齢において最小二・二ヶ月から最大四・四ヶ月だけよい成績を示すことになつてゐます。このことを考に入れますと、第六表の日本兒童の場合は、よほど割増して見なければならぬとおもはれます。なほ、ダーシー博士は別に、言語の力を必要としないテスト、すなはち、アメリカ陸軍で作つたベーター検査といふのを適用して見たのでありますが、その結果を點數で表はしますと、十二歳級において、日本人が七九・五點、アメリカ人が六八・三點、イタリア人が五四・〇點、イスパニア人が五二・七點、ポルトガル人が五二・五點であつて、どの民族に比べても著しい差をもつて日本人が優れてゐるのであります。

(2) サンディフォドの研究 つぎにサンディフォド博士はヴァンクーヴァ公立小學校における日本兒童および支那兒童について、動作テストといつて、こ

とばの力を必要としないテストを行つて、智能指數を算出したのであります。その結果は、ヨーロッパ兒童のが一〇〇であるのに對して、支那兒童のは一〇七・四、日本兒童のは一一四・二となつたのであります。ところが、サンディフォド博士は「このやうに、東洋諸民族の智能が優れてゐる結果になつたのは、東洋諸民族の選ばれたものを検査してゐるからである」といつたのであります。すなはち、外國まで進出するほどのものは、その民族の中では、優れたものであつて、劣等なものは、それ／＼その内地に残つてゐるとするのであります。それに對して、私は、なるほど劣等なものは外國に行つても、生活が出来ないから、内地に残つてゐるに相違ない、しかし、また非常に優れたものも、あまり外國まで行つてゐないであらうから、外國における日本兒童の智能指數の平均は内地におけるものの平均と一致するであらうと考へるのであります。この考へが正しいかどうかにか

ついでには、後に再び述べることにします。

二、B式智能検査の結果 私は、昭和八年から今日までに、東洋諸民族およびアメリカにおける諸民族の智能について、實驗的調査を行ったのであります。用いたテストはB式智能検査と名づけるもので、それは十個のテストからなり、各のテストは萬國共通的な數字と圖形だけを内容とし、被験者は、單に線を引いたり、○をついたり、數字を書いたりして答へることになつてをり、そして説明をしたり、練習をさせたり、答を書かせるに、およそ一時間かゝるのであります。この検査の成績は智能偏差値と名づける値で表はします。なほ、それは東京市内の兒童生徒の成績を基準として、一定の公式を適用して、算出するのでありますが、智能偏差値の現はれる範圍は〇點から一〇〇點までであります。

第七表は東洋諸民族の小學校第四學年から第六學年までの兒童の智能偏

差値の比較表であります。この表における「内地」は東京、京都、名古屋

第7表 東洋諸民族の智能偏差値

民族	本邦人	本島人	半島人	滿洲人	支那人
内地	49.48				
臺北	49.15	47.09			
京城	49.09		45.27		
奉天	50.95			40.57	
北支	48.55				40.81
中支	...				44.19

および仙臺の四都市であり、「北支」は北京、天津、濟南および青島の四都市であり、また「中支」は南京、漢口、沙市、鎮江および蘇州の五都市であります。

第七表によれば、本邦人の智能は、他の諸民族のよりは著しく優れてゐることがわかります。しかも本邦人を除く他の諸民族は、すべて選ばれた兒童だけが就學してゐることを考へます

と、本邦人の優れ方は一そう著しいといはなければならぬのであります。

つぎに第八表は、北アメリカのホノルル、サンフランシスコおよびロサンゼルス（四年から六年）の諸民族の小学校児童の智能偏差値を較べた表であります。この表において、北歐人といふのは、イギリス、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、オランダの諸國の出身者で、その中イギリス人が最も多數を占めてゐます。東歐人といふのは、

第8表 北アメリカ諸都市における諸民族の智能偏差値

民族	智能偏差値
日本人	49.79
北歐人	44.75
東歐人	43.25
南歐人	38.88
アメリカ人	44.21
全歐米人	43.41
アイメン	36.80
黒人	34.88

はフィンランド、ポーランド、チェコスロバキア、オーストリア、ハンガリー、スウェーデン、ルーマニア等の出身者であるが、人数は極めて少いのであります。また、南歐人といふのは、ポルトガル、イスパニア、フランス、イタリア、ギリシャ、メキシコ、アイルランド等の出身者であるが、その中、

イタリア人が最も多いのであります。全歐米人といふのは純血ヨーロッパ人と混血ヨーロッパ人をも全部一まとめにしたもので、その總数は二、四一八名であります。なほ、日本人の小学児童被験者数は六四四名であります。

第八表によりますと、日本人のが四九・七九であるのに對して、北歐人のが、四四・七五、東歐人のが四三・二五、南歐人のが三八・八八（フランス人だけでは四一・九四）、アメリカ人のが四四・二一、全歐米人のが四三・四一となつてをり、アメリカ・インド人や黒人はそれ等よりは遙かに劣つてゐます。そして、日本人が最も優れてゐることは東洋における場合と同様であります。

三、外地外國における日本人の智能 このやうに外地および外國に進出してゐる日本人の智能が、他の民族にくらべて、著しく優れてゐることにな

つたのは、果してサンディフォード博士のいつたやうに、外地および外國へは日本人の中で劣等者が除かれて優等者だけが行つてゐるためであるかどうか。このことは一應調べて見るねらうのあることであります。

第九表は、(1)内地四都市(東京、京都、名古屋、仙臺)、(2)東洋の外地および外國の都市(臺北、京城、奉天および北支四都市)、(3)北アメリカ三都市(ホノルル、サンフランシスコ、ロサンゼルス)における日本兒童の智能偏差値について、平均、中間數、標準偏差および被験者數を示したものであります。この表を見て、つぎのことがいわれます。

(一)これ等三群の智能偏差値の平均値はほぼ等しい。
 (二)三群とも、智能偏差値の平均と中間數との差が極めて小さい。これは多少説明を要することでありませう。およそ、身長、胸圍、頭圍といふやうな身體に關する測定や智能、氣質などの精神に關する測定において、その

第9表 (1)内地4都市, (2)東洋の外地および外國の主要都市, (3)北アメリカ3都市における日本兒童の智能偏差値

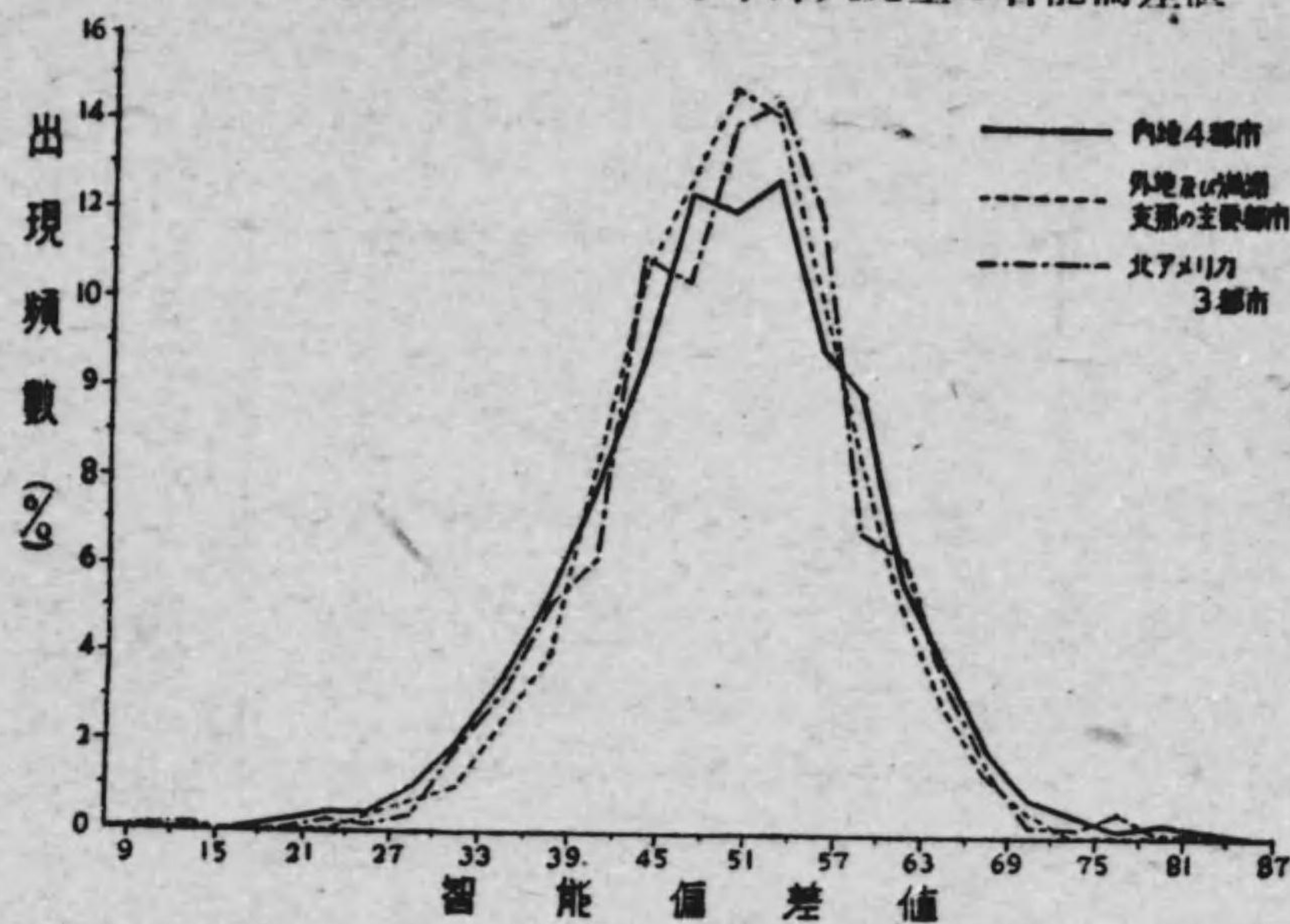
	(1)	(2)	(3)
平均	49.48	49.50	49.79
中間數	49.71	49.65	50.18
標準偏差	10.33	8.30	9.04
人數	3,251	2,756	644

測定數が多くて、測定の仕方が正確であれば、その分配の状態は第八圖における三つの曲線のやうな圖を描くのであります。すなはち、中央の出現數が最も多くて、左右に進むにつれて、その頻數が少くなり、しかも、その減り方が左右およそ等しいので、左右均齊的な形を現はします。このやうな分配曲線を正常分配曲線といひます。これを身長の場合でいひますと、中位の身長ものが最も多くて、それよりも低いものや、

それよりも高いものは次第に少くなつて、極端に低いものや極端に高いものは非常に少いことを表はすのであります。智能の場合でも同様であつて、最大多數は平均値に近い平凡なものであつて、白痴のやうな劣つたも

のや、天才のやうな優れたものは、その出現数が非常に少いのであります。

第8圖 内地4都市、外地および滿洲支那の主要都市、
ならびに北アメリカにおける本邦人兒童の智能偏差値



このやうな正常分配曲線においては、平均と中間數とは全く一致するのであります。(中間數とは成績順にならべて劣等な方から數へても、優等な方から數へも、ちやうど、中央に當るものの成績である)。しかし、もしも、または優等者だけ劣等者だけを除いた場合の成績においては平均と中間數とが一致しないで、著しい差をもつのであります。すなはち、平均と中間數との差の著しいこと

は、やがて分配曲線が、片方にかたよつてゐることを示すのであります。ところが、第九表においては、三群のどの場合にも平均と中間數との差はごくわづかでありますから、特に劣等者だけを除いてあるとは考へられなないのであります。そのことは第八圖を見ても明らかであります。

(三) 標準偏差の値について比較しますと(1)の内地四都市の場合が一〇・三三で最大であり、(2)の外地および外國のものが八・三〇で最小であります。標準偏差とは、分配曲線のひろがりの大きさを示す値であつて、(その計算法は、全體の平均値と各個人の得點との差の自乗の平均の平方根を出すのである)この値が大きければ全體が左右に廣くひろがつてをり、反對に、この値が小さければ、左右へのひろがり狭いことを示すのであります。この立場からしますれば、(1)の内地四都市のもの智能偏差値の廣がりが最も廣くて、(2)の東洋の外地および外國のが最も狭いことになつてゐます。そ

して、そのことは第八圖を見ても、よくわかるのであります。すなはち、(1)の内地四都市の中央の山が最も低いのは、左右のひろがりか廣いからであります。

以上三つの事實、すなはち、(一)三群の智能偏差値の平均は、ほゞ等しいこと、(二)分配の状態は何れもほゞ正常分配曲線を描き、特に或る部分を除いたといふ形跡はないこと。それは實際の分配曲線を見てもわかりますし、また平均と中間數との差の小さいことによつてもわかるのであります。(三)三群の中で、内地四都市のものの標準偏差が最大で、東洋の外地および外國ならびにアメリカにおけるものともに小さいこと。そしてそのことは分配曲線の山の高さを觀察することによつても、これを知ることが出来るのであります。つまり、分配曲線はどれも一方に偏つてはゐないし、平均はほゞ等しく、たゞ異なるのは分配の範圍の大小であります。すなはち、

東洋の外地および外國やアメリカに進出してゐる日本人は、中以下の劣等なものを除いてゐると同じ程度に中以上の優れたものをも除いてゐるといふことになりますが、その平均は十分に内地のものも代表するといつてよいのであります。この點からすれば、サンディフネド博士の考はまちがつてゐるといはなければならぬのであります。

四、日本民族の獨創力 さて、右のやうに、テストの結果では、日本民族の智能は、よほど優れてゐて、これを世界最優民族と自他ともにゆるしてゐる北歐人に比べても、たゞに劣つてゐないばかりでなく、かへつて優れてゐるのであります。ところが、こゝに一つの問題があります。それは、そのやうに、智能の優れた民族が、今までなぜ外國のまねばかりしたかといふことでもあります。そこで、或る人々は、日本人はまねは上手であるが、新しいことを考へ出す力、すなはち獨創力において劣つてゐるといふので

あります。果して、さうであるかどうか。

なるほど、日本民族は昔は支那の文化を學び、現代は西洋の文化をまねてゐるのであります。しかし、このことだけから、日本民族の獨創力のあつたを疑ふことは、まちがつてゐるとおもふのであります。今そのわけを考へて見ませう。

まづ日本が昔、支那の文化をまねたのは、支那の方が、さきに榮えたからであります。およそ文化が發達するには、人口が多くなり、しかも、そこに統一が出来て、或る一部のものに暇が出来るといふことが必要なのであります。ところが支那では今から四六〇〇年も前に黃帝が出て、大體、北支を統一し、その時代に文字も出來たといふことであります。このやうに、支那は古い國でありますから、文化が日本よりもさきに發達したのは自然の理であります。

隣に、立派な菊の花を咲かせてゐるのを見て、自分の方でも、そのやうな花を作りたいと考へて、菊の栽培法を隣から學ぶことは自然であります。なほ、文化の現象は、自分の方から、進んで學ぼうとしなくても、水が低い方に流れるやうに、自然に、流れて來るものであります。それを進んで學ぼうとするところに、民族として優れたところがあるのであります。なほ、次のことを考へなければなりません。すなはち、まねる上からすれば、陸地つゞきで、日本よりも、遙かに都合のよい地位にゐた民族が、かなり多かつたのであります。海を隔て、交通の不便なにか、はらず、日本民族だけが、まねて大いに利益を得たといふところに日本民族の優秀さがあるのではありますまいか。

また、外國に榮えた文化を、まねるといふことは、日本民族だけにあつたのではありません。西洋でも、小亞細亞地方に文化の榮えたころには、

ギリシヤやローマには、まだ夜はあけてゐなかつたのであり、また、ギリシヤ、ローマの榮えたころには、今のフランス、イギリス、ドイツなどは、野蠻の國であつたのであります。そして、西洋の文字は、小亞細亞のフェニキアの音表文字をギリシヤでねり直したものを取り入れたのであつて、日本が支那から、漢字を輸入したのと同じであり、また日本が佛教を支那から學んだのに對して、西洋ではキリスト教を小亞細亞からとり入れたのであつて、隣の美しい菊の栽培法を學んだことは西洋も日本も同じであります。隣の國のまねをすることは、獨創力のない證據ではなく、大いに伸びるためにまねをするのであります。

このやうに考へますと、まねをすることは、少しも耻辱ではありませぬ。たゞ耻辱とすべきことは、そのまねが猿の人まねに終るといふことであります。ところが、日本民族は支那から學んだ以上のものを作り出してゐ

ます。その一つとしてカタ文字の工夫があります。これによつて國文學が大いに起り、日常生活を便利にし、思想も發達したのであります。また日本では佛教の諸流派を研究しては、これを日本化し、さらに印度や支那になかつた親鸞の教や日蓮の教を創めてゐるのであります。その他の文化の領域においても同様のことがあります。つまり、隣から菊の栽培法を教はつて教へた隣の家の菊よりも、遙かに立派な菊を作り出してゐるのが日本民族なのであります。

つぎに、現代では、科學その他のものを西洋から學んでゐますが、これを科學についていへば、なぜ日本民族が科學の研究において先鞭をつけなかつたかといふ問題があります。それは、明治以前の政治をする人々が、國民の獨創力を發揮させないやうな政策をとつたからであると考へられます。足利時代から徳川氏が政治の實權を握るまでの間、日本は小さい戦争

に日を暮してゐたのであります。また、せつかく世は太平になりましても諸藩はたゞその藩の安らかさを希つて事なかれ主義に日を送つてゐて、たまに獨創的な工夫などをしますと、人さわがせをしてけしからんとか、危険であるとかといふ難癖をつけて、或はうち首にしたり、或は追放にあはしたのであります。殊に寛永年間に外國と交際をやめ、日本人の海外渡航を禁止するやうになつて、日本人をこの島國にとぢこめて、目くらにし、その上、階級制度がはつきりきまつてゐて、素質のよいものでも、なかなかその素質をのばすことは出來ず、自然に心あるものの間には、僧侶になるものが多く出たのであります。僧侶になりますと、多くは、その子孫を殘さないのでありますから、このやうにして優れた日本民族の種をどれだけ失つたかわからないのであります。そして、また當時の學問といへば、大體漢學であつて、文字や文章の意味を知ることが主でありまして、學者

といへば書物を多く讀み、文字を多く知つてゐるくらゐのものであつて、その研究は、科學的研究とは、およそ縁の遠いものであつたのであります。このやうな情態の下で、科學的研究が起るはずはないのであります。

このやうに考へますと、日本が科學的研究において、立ちあぐれたのは、社會の情勢のためであるといつてよいのであります。つまり、研究の出來ないやうに束縛してゐたのであります。けれども、この間にあつて、われ／＼のために大いに氣を吐いてゐるのは關孝和先生およびその一派の人の數學的研究であります。これは小學讀本にもつてゐること、よく知つてゐるところであります。關先生の研究は數學でありますから、それを研究させておいても、政治上危険でないといふやうな考から自由な研究をさせたために、あのやうな大研究が出來たのでありませう。しかも、關先生の時代はそれと同じ方向に始めて手をつけたニュートンおよびライ

ブニッツと全く同じ時代なのであります。過去において、このやうな研究があるばかりでなく、現代においては自由な研究がゆるされてゐますので、いろいろの方面において世界的の研究が日本人の手によつて成しとげられてゐるのであります。また、アメリカで調査されたところでは、アメリカで、世界的研究をした日本人が三人（野口英世、高峯讓吉、畑井新喜司）あつて、これを一九〇〇年にアメリカにゐた日本人の二十一歳以上の男子の數に對する割合にしますと、九、三〇〇人ごとに一人の世界的學者を出したことになりました。それに對して北歐人は二三、二〇〇人につき一人、東歐人は二八、二〇〇人につき一人、イタリア人を除く南歐人は二九二、三〇〇人につき一人のすぐれた學者を出してをり、支那、イタリア、メキシコからは、かなりの人が移住してゐたのに、その中から一人も世界的の科學者が出てゐないのであります。これは日本人はその環境がよければ北

歐人よりも一そう多くの科學者を出し得ることを證明するものであらうとおもはれます。そして、これを前に述べた腦の重さに関係させて考へますと興味のあることでもあります。

以上は、科學の方面について考へたのであります。獨創はたゞに科學の方面には限りません。人間の關係してゐる文學、藝術、宗教、道德、軍事、經濟、法律等あらゆる方面に獨創が現はれるはずであります。もしも、それ等の諸方面のものを綜合して考へますと、日本民族の獨創力はこれを西洋人のものと比べて、決して遜色はないと考へられるのであります。

二、日本民族の氣質

人の力、民族の力といふことを考へるには、身體と精神の兩方面を見るべきであり、その精神の中では、賢さについて述べましたから、さらに精

神の他の方面、しかも、それは賢さよりも一そう大切なと考へられる氣質・性格等について見なければなりません。そこで、まづ日本人の氣質について述べませう。

一、氣質　よろこび、かなしみ、いかり、おそれといふやうなことはでいひ表はす心の情態を情緒といひますが、氣質といふのは、主として、そのやうな情緒の起り方についての素質、すなはち、生れつきであります。これを、いかりといふ情緒についていひますと、ちよつとしたことでも、すぐに怒るものと、なか／＼怒らないもの、また怒りにも激しいものと、さうでないものといふやうに情緒の起る速さと強さとが、人によつて違ふのであります。このやうな速さおよび強さといふことを規準にして、情緒の起りやうが、速くて強いもの(胆汁質)、速くて弱いもの(多血質)、また、おそくて強いもの(憂鬱質)、おそくて弱いもの(粘液質)の四つにわけらる

け方が、今まで廣く用ひられてゐます。そして、北歐人には粘液質のものが多く、南歐人には多血質のものが多といふやうにきめるものがあります。これも一つの考へ方でありませんが、近ごろは、情緒だけでなく思想または考をも含ませて、表出的であるかどうかによつて、氣質を外向性と内向性の二つにわけると、すぐそれを外に現はすたちの人で、話上手であり、考や情緒が起ると、すぐにそれを外に現はすたちの人で、話上手であり、社交的であり、話をするとき手まねや顔つきをいろ／＼に變へる人であり、非社交的で、獨りでも淋しくない人である。それは心の中の變化を楽しみ得るからであります。それでは日本人は、どのやうな氣質のものであるか。私は、これから氣質を、このやうに、内向性と外向性にわけわけ方に従つて日本人の氣質について考へて見ようとおもひます。

二、**文藝における特徴と氣質**、今までの研究によりますと、北歐人は内向性に富んでをり、それに對して南歐人は外向性の傾向が著しいとされてゐます。それでは、氣質を見わけけるには、どのやうな方法によるかといひますと、それは(一)テストの結果によること、(二)その民族がいろくの場合に現はす日常の行動の觀察の結果によること、(三)その民族のもつ文學、藝術の特徴や趣味の生活の特異性の觀察または、(四)自殺、他殺等の變態現象についての統計的事實から推定するのであります。それで、こゝでは文藝における特徴の觀察と變態現象の統計の結果からの推定を述べて見ます。

日本の文學や藝術には、簡素といふ一つの特徴があります。文學では、和歌と俳句、繪畫では墨繪、舞踊では能、建築では神社、鳥居等すべて簡素といふ特徴があるやうにもはれます。簡單で素朴であるから、見る人、聞く人の方で補ふべき部分が多く残されてゐます。それで趣があり、深み

があるのであります。補ふことは心の變化であります。心の變化を樂むのは内向性のものでなくては出來ないことでもあります。なほ、日本の藝術には沈痛の感じを興へ、悲みの情緒を起させるものが多いやうであります。音樂では琴、三味線の沈痛な調子がよろこばれ、芝居では喜劇よりも悲劇が好まれるのであります。一般によろこびの情緒は、あゝと笑つてしまへば、それでおしまひになります。悲みの情緒は心に強く長く影響を與へるものであります。その強く長く心を動かす種類の藝術をよろこぶことは日本人に内向性の傾向が著しいことをさし示してゐるやうにもはれるのであります。

三、**變態現象と氣質** さらに、變態現象について考察して見ますと、この文藝等の特徴から推定したことが裏書きされるやうであります。

(1)自殺 まづ自殺者の多少について見ませう。自殺は一定の民族におい

ては、その社会的および経済的な大變動がない限りは、その國の人口に比例して、毎年ほぼ等しい比率をもつて現はれるものであります。そして、どんな人たちの人がよく自殺するかといひますと、それは外向性のもものよりも内向性のものであります。これをヨーロッパ人についていひますと、内向性の著しいとされてゐる北歐人には自殺者が多くて、外向性民族とされて

第10表 北歐人と南歐人の自殺者数——人口100萬ごとに毎年

北 歐 人	ドイツ人.....	254
	デンマーク人.....	209
	スウェーデン人.....	171
	イギリス人.....	123
	オーストラリア人.....	118
	ニュージーランド人.....	117
	オランダ人.....	82
平均	154
南 歐 人	ポルトガル人.....	115
	イタリア人.....	78
	ギリシャ人.....	56
	イスパニア人.....	39
	アイルランド人.....	30
平均	64

る南歐人には、それが少いのであります。(第一〇表参照)

第一〇表では、オランダ、ポルトガルのやうな多少の除外例はありますが、一般の傾向は平均で示されてゐて、北歐人は人口百萬人ごとに毎年一五四人の自殺者を出し、南歐人は六四人の自殺者を出してゐます。

それでは、日本民族の場合は、どうであるかといひますと、昭和元年から同十二年までの十二ヶ年間の平均では、人口百萬人ごとに毎年二一二人の自殺者があつて、ドイツについて自殺者の多い部類に屬するのであります。なほ、臺灣本島人は一七五人、朝鮮半島人は一〇五人となつてゐて、兩方とも南歐人の平均よりも遙かに多く、むしろ北歐人の方に近いといつてよいのであります。支那には正確な統計がないので、どういふ状態であるか、わかりませんが、臺灣本島人のが、大體、南支那人のものを代表してゐるであらうとおもはれます。

(2)他殺 つぎは殺人であります、わが國では、昭和八年から同十三年

までの六ヶ年平均でいひますと、人口百萬人ごとに六・四人だけ殺されてゐますが、これに對して、北歐人は九・六人、南歐人は三一・五といふ割合になつてゐます。それでは、どういふたちの人が殺人罪を犯すかといひますと、腹がたつと、すぐにそれを動作に現はすやうな外向的な人で、例へば夫婦の間或は友人の間で喧嘩が起ると、一方が直ちにピストルを出し、或は出刃をふりまはすやうな人であります。もつとも、暗殺といふのがあつて、それは今腹がたつても、それをすぐ行動に現はさないで、一定の計畫をたてて長い間苦勞をして後に仇を討つとか、或は國家の現狀について不満をいだき、その公憤をはらすためにいろ／＼計畫をたてて實行するといつたやうな性質のものであります。その數は非常に少く、統計などにはあまり影響を與へないであらうとおもはれます。統計的の數値を左右する殺人事件は、おほむね男女關係或は酒席の口論などに基づくもので、つ

まり物を考へないで衝動的に動作をするいはゆる外向性のものが犯しやしい罪であります。

(3)離婚 離婚率の多少といふこともまた民族の氣質と關係をもつてゐるやうであります。ヨーロッパでは、自殺者の多い北歐人には離婚が多くて、他殺者の多い南歐人には、それが少いことになつてゐます。すなはち、人口一萬ごとに毎年離婚する數は北歐人のドイツ人とデンマーク人は七、スウェーデン人、オランダ人、ニュージーランド人は四、オーストラリア人は三で、これ等六ヶ國人の平均は四・八となり、南歐人のポルトガル人は一、ギリシヤ人は二であつて、その平均は一・五であります。(その他の南歐諸國には宗教上のきまりで離婚を許してないために統計がない)。これに對して、わが國では昭和四年から同十三年まで、十ヶ年の平均は七・二で、ドイツやデンマークとほゞ同じ率であります。

内向性のものは、夫婦の間に事件が起つたときに、いろ／＼と考へこんで或は想像をめぐらし、或は疑念をいだいたりして、つひに離婚を執行することになるのが普通であるが、これに反して、外向性のものは、事件に出あつて、或は口論したり、或は怒の情緒から直ちに殺人罪をおかすやうになりがちであるので、離婚する前に他殺現象が起るのであります。これが、外向性の南歐人には他殺数が多くて離婚数の少い原因であらうとおもはれるのであります。

以上のべた自殺、他殺、離婚といふやうな變態的社會現象についての統計的調査の結果から見れば、日本人には、自殺および離婚が多くて、他殺が少いといふ點で北歐人とよく似てゐるのであります。これは日本民族に内向性のものが多いといふことを、さし示すものであるやうにおもはれます。それでは、内向性と外向性と何れが優れてゐるかといひますと、

つぎの三つのことから、内向的氣質が人類として一層發達したものであると考へられるのであります。

(1) 子供から大人になる有様を見ますと、子供は思つたこと、感じたことを、すぐ外に表出するが、大人になるにつれて、だん／＼このやうな態度が少くなります。

(2) 現代生存してゐる諸民族を観察して見ますと、一般に優れてゐる民族は内向性に富み、劣つた民族は外向性の著しいといふことが認められます。アメリカにおける白人と黒人との對比は、これをよく表はしてゐます。

(3) アルコールを飲みますと、よく語り、よく笑ひ、よく怒り、よく泣くやうになります。これはアルコールの影響によつて意志の禁止作用が弱められ、外向的になるためであります。

このやうな事實から推定して、人類の發達の方向は外向的から内向的に

進むものと考へられます。そして日本民族は、その優れてゐるとおもはれる内向性の著しい民族なのであります。

三、日本民族の性格

一、性格 性格は意志における素質であるといはれます。そして、氣質と性格とは密接な關係があつて、實際には區別の出来ないことが多いのであります。それは意志の働と情緒とは元來わけることの出来ない一続きの働であるからであります。従つて一定の氣質のものは一定の性格を作りやすいのであります。そして性格は素質を本として教育その他の環境の影響によつて、だん／＼鍊成されて、意志の働に習慣が出来、その結果人々の行動にきまりが出来るのであります。この意味で性格は意志の習慣性であり、行動の規則性或は法則性であるといつてよいのであります。従つて、

一定の性格の人はかく／＼の事情の下には、かく／＼の行動をするであらうと豫想がつくのであります。例へば、「移り氣の人」といふことをよくいひますが、それは、今一つのことをやつてゐるかとおもへば、つぎには他のことといふやうに、つぎからつぎへと興味が移つて行く人でありませうが、そのやうな性格の人には、根氣を必要とするやうな事をまかせることは出来ないであります。それは、その人がきつと途中やめをするであらうと豫想されるからであります。また、「貪慾な人」といふことがありますが、そのやうな性格の人は、いつでも利己的な利益といふことを中心として行動するといふことが豫想されるのであります。

二、性格の分類 さて、右のやうな、意志の習慣性或は行動の規則性としての性格は、いろ／＼の立場からこれを分類することが出来ます。

(1) 性格には、事を行ふに當つて、あらかじめ、よく考へて行ふ思慮型と、

考へが浮び感情が起ると前後の考もなく、直ちに實行する衝動型とがあります。これを氣質に關係させていひますと、内向性氣質のものは思慮型になりやすく、外向性氣質のものは衝動型になりやすいのであります。

(2) 一たん一つの目標を定めたならば、それを固く守つて、他人のいふことに雷同することなく、従つて、容易に目標を變へない固執型と、今一つの目標をもつてゐるかとおもへば、つぎには他の目標へといふやうに興味がつきからつぎへと絶えず變はるたちの動搖型とがあります。前のものは強い性格で内向性のものに多く、後のものは弱い性格で外向性のものに多いのであります。

(3) 目を常に前途のことに向けて、將來のことを目標とする前進型と、常に過去のことを考へて行く後退型とがあります。前のものは積極的な進取型であり、後のものは消極的な保守型といつてよいものであります。

(4) 行爲の動機を選ぶときに、自分といふことを主として考へる自己中心型と、社會國家といふやうに自分の屬する團體のことを規準として動機を選ぶ社會中心型とを區別することが出來ます。

これ等の、いろ／＼の立場から分類した性格型は、同一個人において、いろ／＼と組合せられて、實際に見るやうな個人的特徴のある人物が出來るのであります。たとへば、等しく思慮的、進取的、固執的のもので、自己中心型のものもあり、社會中心型のものもあり、また、等しく社會中心型であつて、一々の場合について見れば、ねばりのある固執型と、その反對の動搖型とがあるといふやうに個人的に見れば、いろ／＼のちがひがあるのであります。しかし、この四つの方面から見れば、大體、個人の特徴を見ることも出來、従つて一つの民族と他の民族との比較も出來るのであります。

三、日常の觀察から見た日本人の性格　それでは、どういふ材料で、これ等の性格型を知ることが出来るかといひますと、智能を検査するための智能検査法にならつて作つた情意検査法も出来てゐますが、今のところ、やはり氣質の場合と同じやうに、一定民族の日常の行動の觀察や過去における業績を見るのが最も有効であります。

ハワイ大學のポータス博士は、ハワイの三つの島の農場で働いてゐる六種の民族の労働者について、平常それ等のものと、つき合ふ機會の多い農場の支配人、醫師、教師など二十五名のものでして八種類の性質について品等をつけて、その結果を點數で報告させたのであります。點數のつけ方は、一つの性質において、六種の民族中最も優れてゐる民族を五點とし、最も劣つてゐるものを一點とし、その他はこれ等兩端の間の點數を與へるのであります。その結果によりますと、

日本民族の最も著しく優れてゐるとされてゐるのは、

(1) 團體のために謀り、その將來のことを考へて行動する計畫力のあること。

(2) 困難或は危険な事情に出あつても、少しもひるまないこと、すなはち、勇敢であること。

(3) 一つのことには心を固着させて、目的に向つてずんぐりと進む傾向、すなはち、不動的なこと。

であります。この中(1)は性格の分類に従へば、社會中心型、進取型であり、(2)と(3)は固執型であります。

つぎに、他の民族に比べて、かなり優れてゐるとされるのは、

(4) 感情を抑制し、異變に當つても心を亂さない自制力のあること。

(5) 用心深いこと或は衝動を禁止する力のあること。

(6)他人の意見に左右されないで、理論的に考へたことを實行すること、すなはち自己決定の傾向の著しいこと。
であります。そして、これ等の(4)、(5)、(6)の性質は、ともに衝動型でなく、思慮型であることを示すのであります。

(7)つぎに、日本人の最も劣つてゐる性質、すなはち六種の民族の中で最も劣つてゐる方面は、妥協性の乏しいといふことであります。すなはち、自分の考に他人から反對されたとき、その反對を押し切つても、自分のおもふところを實現しようとする傾向が強いのであります。妥協性は、固執型や思慮型の反對の性質であつて、その方面で日本人が劣つてゐるとされてゐるのはなるほどと、おもはれるのであります。もつとも、ポーターアス博士は、ハワイにおける全人口の四割を占める日本民族は、その團體の勢力を背景にして、多少そのやうな傾向は著しいであらうが、この點はや、

過大視されてゐるであらうといつてゐます。それはともかくとして、自分の思ふところを、押し通して行くといふ性質が日本人に強く、従つて妥協性が弱いやうにもはれてゐるのであります。

(8)最後に、日本人のやゝ劣つてゐる點は、約束を守り、義務を果たすことに忠實でないことであります。この性質においては、多くの他の民族よりは優れてゐますが、たゞ支那人に比べると、やゝ劣つてゐると品等されてゐるのであります。これも同胞の多數をたのみといふところから來てゐるのであるかもしれないが、日本人は決して信用を重んじない民族ではないのであります。このことは、カリフォルニアにおいてストロング博士がヨーロッパ人の家庭に雇はれてゐる諸民族について二五二名の主婦の報告をまとめたところで明らかであります。それによりますと、日本人は仕事の上で最も能率的であるばかりでなく、最も信用の出來る部類に屬するの

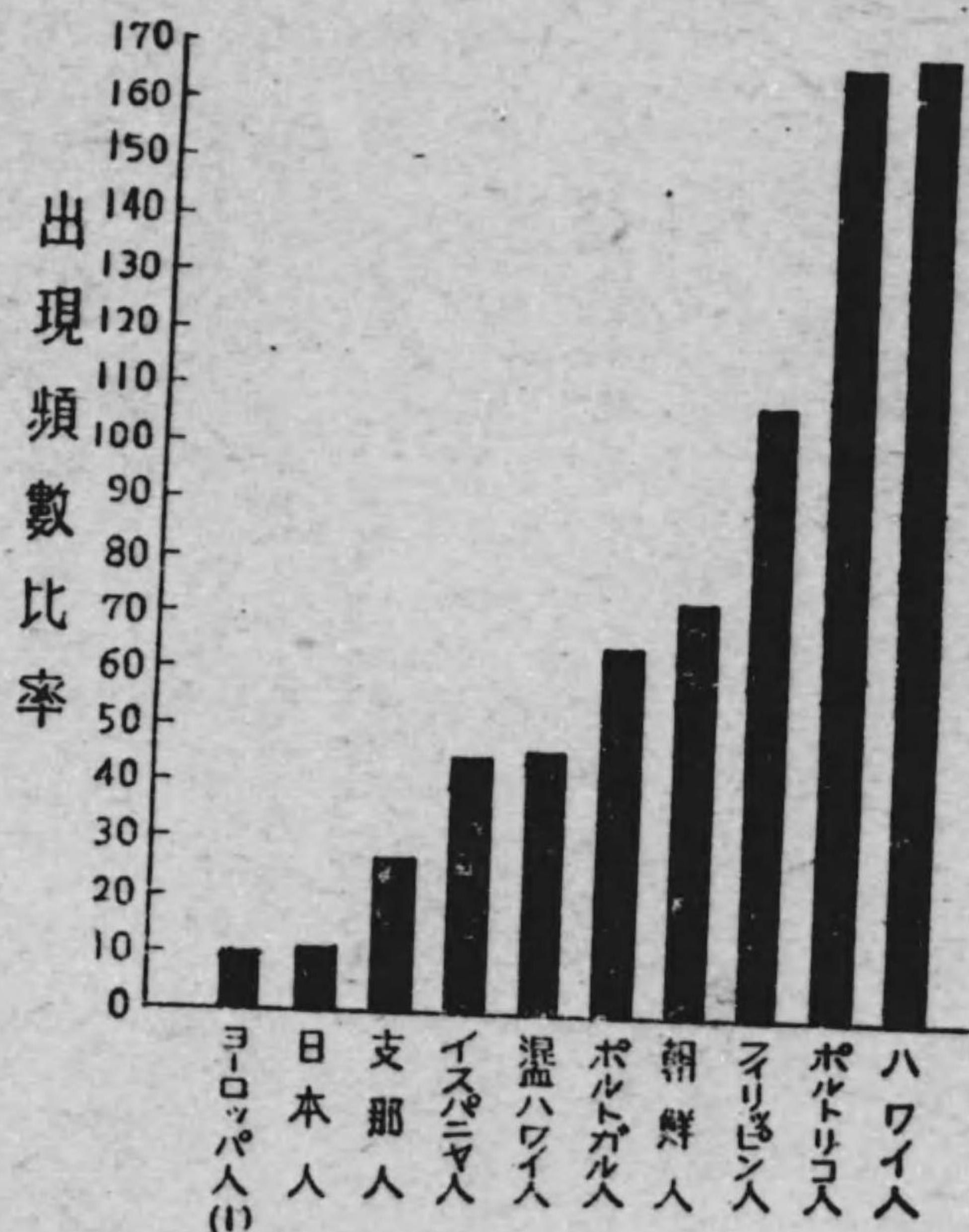
であります。この場合にも信用といふ點で最劣一點から最優五點までとして報告させたのでありますが、その平均點を見ますと、スコットランド人が最も優れてゐて、四・八點、そのつぎに日本人とフィンランド人が四・七點、スウェーデン人が四・六點、ドイツ人が四・五點、支那人が四・四點、イギリス人とアメリカ人が四・三點、黒人が四・二點、フィリピン人が最も劣つてゐて四・〇點となつてゐます。さうして見ますと、ハワイにおける品等において支那人より下位にいたのは多少日本人に對する偏見が入つてゐるかとおもはれるのであります。

四、性格と犯罪 日本人が信用の出来る民族であるといふこと、すなはち、正義に強いといふことは、犯罪者の少いことでもわかるのであります。カリフォルニアにおいて、明治三十三年から昭和二年までの二十八年間の全體の犯罪者の中で、支那人は三・五%あつたのに對して、日本人は〇・九%

しかなかつたのであります。しかるに、各の民族の人口について見るに、支那人はカリフォルニア全人口の一・五%、日本人は一・七%で、日本人の人口の方がやゝ多かつたのであります。もしも、罪を犯す傾向が、どの民族においても等しいとすれば、支那人の犯罪者數は全犯罪者數の一・五%でよく、日本人のは一・七%あつてしかるべきであります。それなのに、支那人のは三・五%もあつて、人口から期待し得る數の二・三倍にもなつてをり、それに對して、日本人のは、人口に比例していへば、一・七%あるべきものが〇・九%しかない、すなはち、人口から期待される數の半分しか犯罪者を出してゐないのであります。

成人に犯罪者の少いものと同じやうに、日本人には少年犯罪者も少いのであります。ホノルルにおいて、昭和元年から三年までの間に現はれた少年犯罪者數を各民族別に兒童生徒一千人に對する比率で示しますと、ハワイ

第9圖 ホノルルにおける各種民族少年犯罪者数の児童生徒1,000に対する比率
(ヨーロッパ人(1)は南歐人を除いたもの)

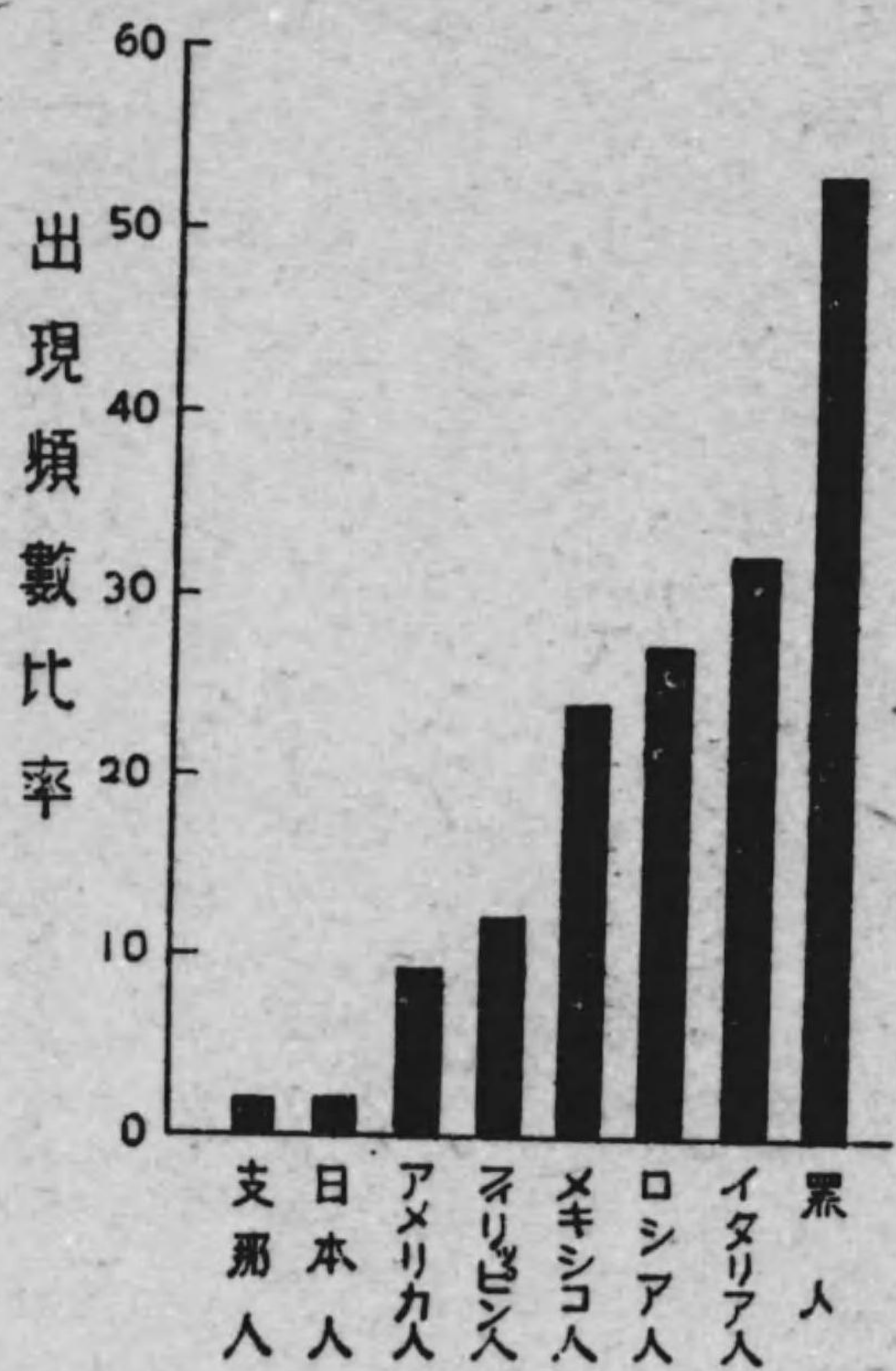


別に児童生徒数一千人に對する比率で示しますと、黒人五七、イタリア人

くヨーロッパ人
一となつてゐ
ます。(第九圖)
また、ロサン
ゼルスで、昭和
四年と五年に、
少年審判所で取
扱つた少年犯罪
者數を、各民族

人一七〇、ポルトリコ人一六七、フィリッピン人一〇七、朝鮮人七三、ポルトガル人六五、イスパニヤ人四六、支那人二七、日本人一二、南歐人を除

第10圖 ロサンゼルスにおける各種民族少年犯罪者数の児童生徒数1,000に對する比率



三二、ロシア人二七、メキシコ人二四、フィリッピン人一二、アメリカ人九、日本人と支那人はともに二となつてをります。(第一〇圖)

なほ少年犯罪
では、盗みが最
も多いのであり
まして、支那少
年では、全犯罪
者の四六%、日
本少年では四九

%となつてゐます。このやうに兩民族とも盗みが多く、その比率は、おほよそ等しいのでありますが、同じ盗みでも、その種類が民族的に異なつてゐることは興味のあることであります。すなはち、兩民族の全體の犯罪件

數に對する各種別出現數%を調べて見ますと、單なる窃盜は日本少年において一九%、支那少年において三六%で、斷然支那少年が多いのでありますが、夜間他人の家に入りこんで盜みをする夜盜では、日本少年において二八%、支那少年において九%で、この方は日本少年の方が遙かに出現數比率が大であります。こゝに兩民族の性格の相違が、はつきり現はれてゐるとおもふのであります。すなはち、窃盜は、ほとんど危険のない盜みであるのに對して、夜盜は、かなり危険を伴ひ、勇敢でなくては出來ないわざでありますから、窃盜が少くて夜盜の多い日本人は、積極的な勇敢な性格をもつてゐると考へられるのであります。

さて、このやうにアメリカにおける日本人には、成人においても、少年においても、ともに犯罪者が少いのであります。これは家庭教育、日語學校教育等環境の影響にもよるのでありますが、また生れつきにもよるとこ

ろが多いであらうとおもはれるのであります。支那人が個人主義的で自己中心型であることは生れつきによるやうであります。その原因についてハンティントンやラッセルなどのいふところによりますと支那にたび／＼飢饉や洪水があつたためであるとするのであります。すなはち、洪水や飢饉によつて郷土をはなれなければならぬときに、たゞ金錢や物をもつてをれば、生活にはこまらないから、貯蓄心といふ點では、支那人はどんな民族よりも優れて來てゐる。そして、愛他的とか社會全體のために働くものは、そのお禮として餓死といふ苦杯をなめさせられるので、そのやうな性質をもつてゐるものは、子孫を残さないことになるから、長い年月の間に、生き残り榮えたものは、みな利己主義的なものばかりであるとしてゐるのであります。それについてポーター博士は、支那人の利己主義はハツイのやうな少しも洪水もなく飢饉もないところに移住しても變らないで、

彼等はやはりその本國におけるものと同じやうな性質を現はしてゐるものであるのです。

日本人はこれに反して、金錢には極めて淡泊であります。素質的に淡泊なのでありますが、その上に罪を犯し、従つて正義を無視することは、たゞに自分の不名譽であるばかりでなく、家の不名譽であり、民族の不名譽であるとするのであります。これは家庭および社會の人々の考へ方が、いつとはなしに子供の心に影響してゐるのであります。この家および民族のことを中心として考へ、その考に基づいて行動するところに日本人の最も優れた特徴があるのであります。

四、日本民族の着眼

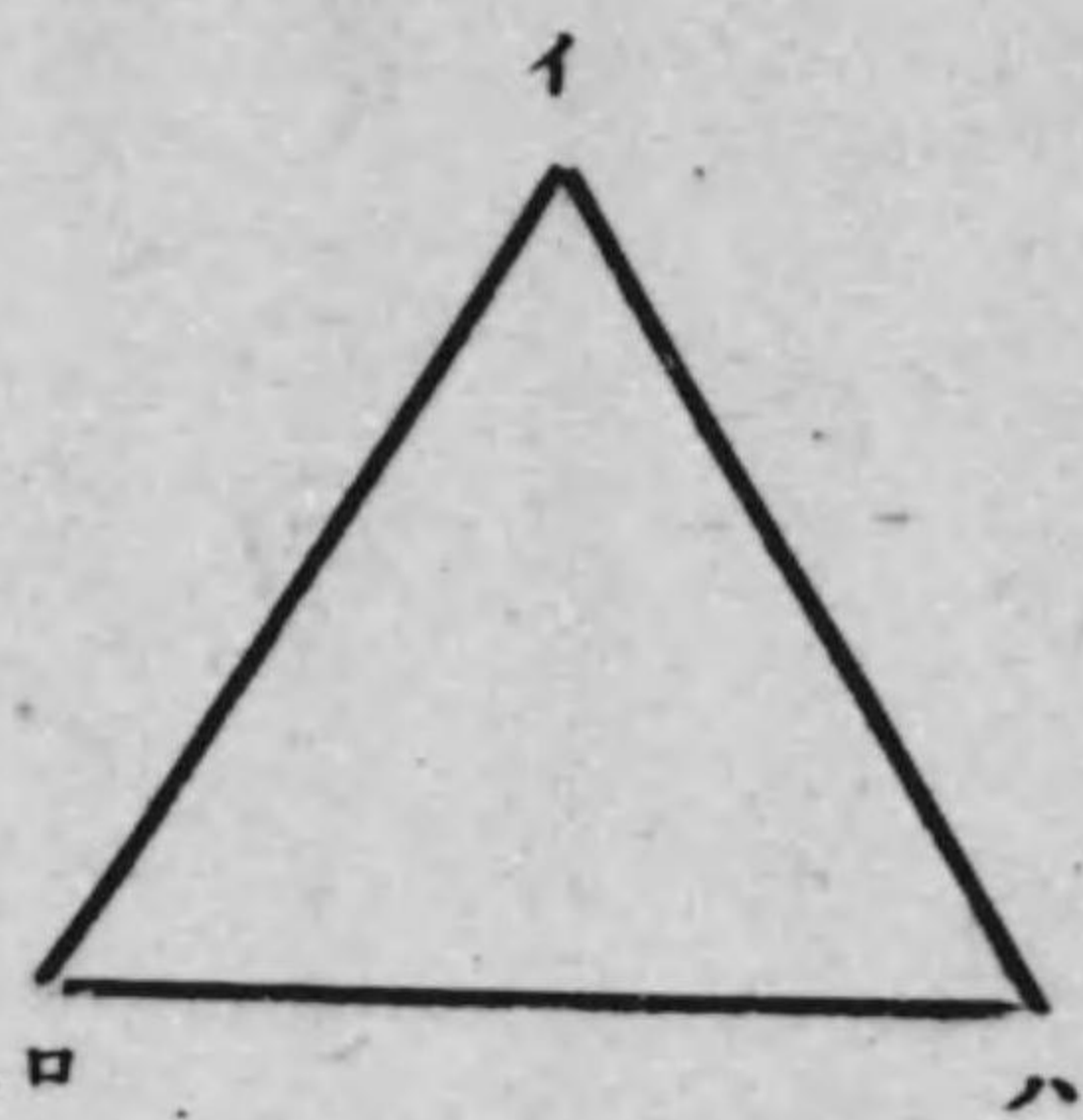
どんな民族でも、その國の榮えるやうにと希はないものはありません。

殊に、今日のやうに國と國とが對抗して、それ／＼その國の存亡をかけて努力してゐるときには、愛國心はその高調に達するものであります。しかし、等しく愛國心といつても、その國の成立ちや傳統を異にすると、それぞれその色合と、その強さとが違ふのであります。

國民の國に對する態度の相違は、全體としての國と部分としての個人との關係についての考へ方の相違に基づくのであります。それについて日本人の考へ方は部分よりも全體を重いとするのでありますが、西洋でも支那でも、その反對に部分を重いとするのであります。そして、どちらが正しい考へ方であるかは第一一圖について考へて見ればよくわかるのであります。イロ、ロハ、ハイの三つの直線（部分）が圖に示すやうに結合してゐるとき、われ／＼はこれを三角形（全體）といひます。ところが、今、イロの一邊だけをとつて、これは三角形の一邊であるといつても、それを誰

も承知しないでありませう。それは、一本の直線だけを取りだしたのでは、その直線に三角形といふ性質は認められないからであります。すなはち、

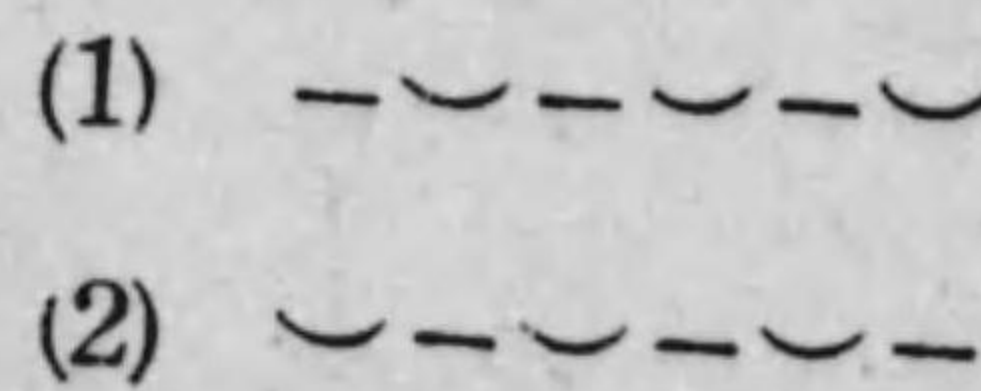
第 11 圖



部分を集めただけでは三角形といふ全體は出來ないのであります。この場合全體は部分の總和以上のものであります。また、こゝに鉛筆で机をたゝいてコツコツといふ音を出して

第一二圖(1)のやうに強く弱く、強く弱く、強く弱くと拍子をつけて打ち、また、つぎには同じ圖(2)のやうに弱く強く、弱く強く、弱く強くと拍子をつけて打つて見ると、兩方とも、部分としての強い音と弱い音との數は等しいのであります。全體としての拍子は全く異り、われれに正反對の氣持を起させるものであります。こゝに

第 12 圖



も單に部分を集めたものが全體と等しくないことが明らかに認められるのであります。

さらに、歴史のある國においては、今生きてゐる現在の人民だけが、横につながりをもつて、その國を形づくつてゐるのではなくて、過去の死んだ人も關係をもつてゐるのであります。すなはち縦のつながりがあるのであります。縦のつながりのことをいへば、たゞに過去のものとして現在のものでだけではなく、さらに、將來生れて來るものも關係があるのであります。このやうに縦と横のつながりから成り立つてゐる全體としての國は、いはゞ一つの大きい生命の流であつて、各個人はその流の中に現はれた一つのさゞ波に過ぎないのであります。

このやうに考へますと、部分としての個人よりも全體としての國を重いとすゝる日本人流の考へ方が正しいのであります。それが正しいといふこと

は、われ／＼の家について考へて見れば、明らかになるとおもふのであります。そして、この正しい考へ方或は眼のつけ方は、日本のやうな國體をもつ國の國民において、初めてもち得ることであつて、西洋や支那のやうに、たゞ力の強いものがとつて代つて國を支配した國々では、たうてい現はれて來ないものであります。それで、それ等の國々の國民は現在生きてゐる人々だけで國を形づくつてゐるとし、國をもつて、單に個人の利益、幸福を保護し増進するためのものであつて、もしもそれが出來なければ、その國は亡びてもよいと考へるのであります。すなはち、個人のために國があるとし、個人と國とを對立させながら、個人を重いとするのであります。全く自己中心的の着眼であります。利己主義とか、個人主義といはれるわけはこゝにあります。それゆゑに、彼等にとつては國家に奉仕するといふことは自分の利益を無視して、個人を犠牲にすることになるので

あります。

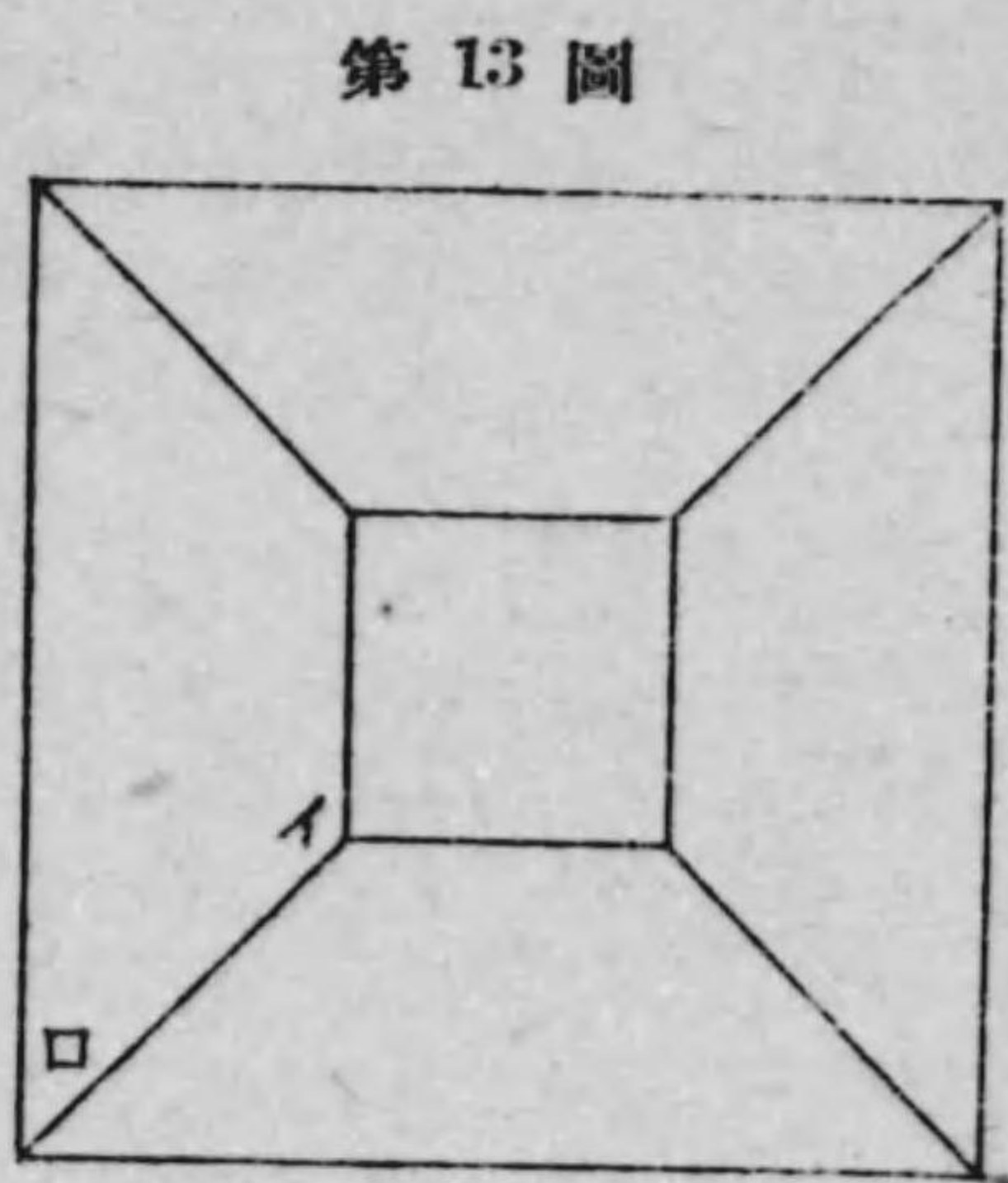
これに對して、大多數の日本人では、國があつての個人であつて、個人は全體の中に含まれるものであるとする。しかも、個人を無視するのではなく、個人の心の中に國家があり、國家は個人を通して表現されるのであります。大きい生命の流なる國家をます／＼大きくすることは、さざ波としての個人の務であり、責務である。従つて、必要があればよろこんで國のために一命をさしげる。それは自分を犠牲にするのではなくて本務を盡すのであります。かの滅私奉公といふ語は、西洋の個人主義的の立場から考へられたもののやうに考へられます。日本では奉公することが個人の本務なのであります。たゞ滅私奉公といふことをもつて自分の小さい慾望を抑へて、公のために盡すといふ意味ならば、それでよいとおもひます。それは、この非常時においてさへも、時に闇相場によつて不當の利益

を得るものや、買だめや賣りをしみをするもののあることなどからすれば、この標語も効果があり、大いに必要があるであらうと考へられます。しかし、日本人の本然の姿に歸れば、自分をすてるのではなくて、自分の本分を盡すことがやがて公に奉ずることになるのであります。

いはゆる日本精神には、いろ／＼の特徴を考へることが出来ませんが、中でも、部分よりも全體を重いとして行動すること、すなはち、まづ自分の屬する團體たる家および國に着眼して行動することが、最も著しい點であらうとおもひます。そして、この正しい着眼の仕方こそは、日本人のもつ數ある特質の中で最も重要なものであります。

前に述べた身體、智能、氣質等における特徴或は優秀性はいはゞ建物を造るときの建築材料であつて、それ等の材料を用ひて、どんな建物を作るかは設計の相違、すなはち着眼の相違によるのであります。同じ建築材料

を用ひても、設計すなはち着眼の相違によつて、異なる建物の出来ることは第一三圖によつて、これを推察することが出来ます。第一三圖は十二本の直線を結び付けた平面圖であります。今、イ點を見つめるか、または



第 13 圖

イ點からロ點の方に眼を動かしますと、全體は、中の小さい四角が自分の方にとび出てゐる立體圖に見えます。それに反して、ロ點を見つめてゐるか、またはロ點からイ點に向つて眼を動かしますと、こんどは、全體は中央の四角が凹んだ立體圖に見えます。

す。このやうに同じく十二本の直線を組合せた平面圖が全く異つた立體圖に見えるのは、たゞ眼のつけどころの違ひのためであります。これはたとへてありますが、われ／＼の日常の行動を支配するものは、着眼にあると

いつてよいのであります。そして、前に見ましたやうに、建築上の設計にもくまらべられる日本人の着眼は最も正しい良いものであります。ところがこの正しい良い着眼の仕方は一時西洋風の個人主義的な着眼の輸入によつて多少ゆがめられかけたのであります。今や、國をあげて、正しい着眼をとりもどし、日本人の本然の姿に立ち歸つて來たのでありますから、これを將來永久に持ちこたへて行くことが出來たならば、どんな困難にあつても、それを突破して、われ等の大理想の實現を可能ならしめるであらうと信ずるものであります。それは、われらはそれに必要なだけの素質を十分にもつてゐるからであります。

第四章 日本の人口問題

およそ、民族の力は、これを質とともにその量の方面から考へなければなりません。質の方面では今まで述べましたやうに、日本民族はよほど優れた特徴をもつてゐるのであります。さて、その分量の方はどうであるか。どんなに質的には立派であつても、その數が不足するやうでは、せっかく立てた大理想も、これを實現することはおぼつかないのであります。それでは、日本の人口の趨勢はどうであります。

一、從來の考へ方 今日、多くの人は生めよ殖やせよとさげんでゐます。それでわかりますやうに、日本の出生率はだんく減つてゐるのであります。ところが、今から十數年前には人口と食糧問題とを一しよにとりあげて政治家も學者も國民に對して暗に産兒制限をするやうにすゝめてゐたの

であります。まことに驚くべきことといはなければなりません。私はそれは大變なことであると考へ、大正十五年に出した「日本民族の將來」において、その考を反駁し、また、その年の秋に、中國および九州の諸都市において開かれた簡易保險創設十周年記念講演會で、國策の上から生めよ殖やせよといふことを力説したのであります。その趣意としたところは、日本民族はその素質は優秀であつて、將來東亞の指導、さらに進んでは世界を指導する使命をもつてゐるが、人口の不足を感ずることがあつてはならぬ。しかるに、今の状態では、人口の不足する時期が早晚來るに相違ないから、今から大いに、その増殖をはからなければならぬといふのであつたのであります。それはわが國では大正九年を頂點として、そのころ出生率は少し下り坂になつてゐたからであります。

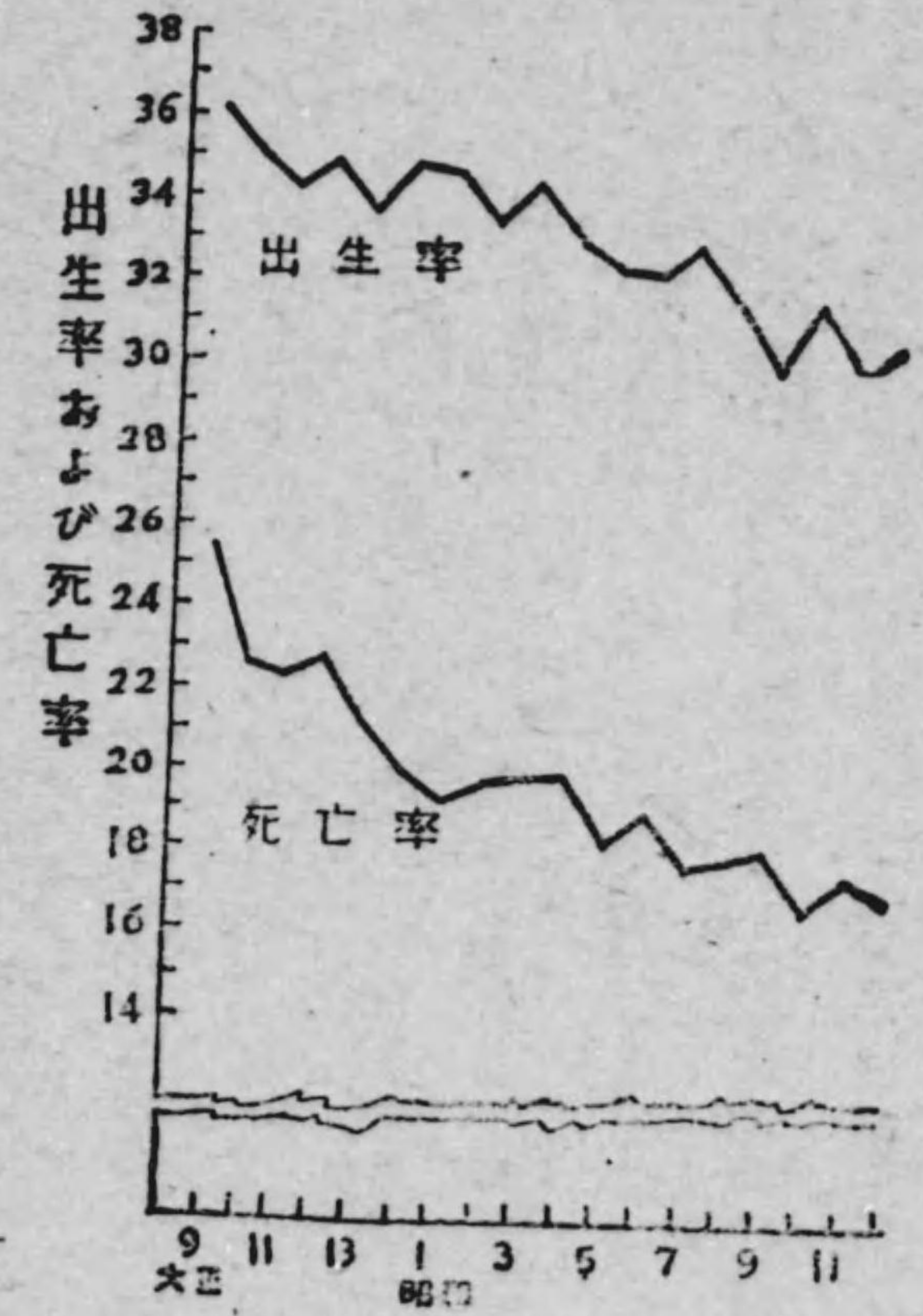
二、出生率曲線と死亡率曲線の特徴 おほよそ出生率の減り方は初めはゆる

るやかに減つて行くが、後には急に著しく減るのが、今までどの國でも経験してゐるところであります。しかるに、死亡率の方は減り始めると急に減つて、あとはゆるやかになり、つひには全く減らなくなるのが通例であります。さうすれば、出生率曲線と死亡率曲線とは自然のなり行きにまかせておけば、つひには合致する時が來て、人口は一人も殖えなくなるのであります。さらに、悪い場合には二つの曲線が交つて、生れる數よりも死ぬ數の方が多くなるのであります。フランスは數年前から、この状態を示してゐるのであります。

三、わが國人口の動態 それでは、わが國の出生と死亡との關係はどうであるかといひますと、大正九年には人口千につき三六・二といふ出生率であつたのが、その後、少しづつ、下つて、昭和十一年には、二九・九となつたのであります。昭和十二年にはわづかにとりもどしましたが、昭和十三

年以後は、事變中でもありますので、大いに減つてゐるのであります。そして死亡率の方は、大正九年に人口千につき二五・四であつたものが、次第

第14圖 最近日本における出生率および死亡率(人口1,000につき)



に減つて昭和十一年には一七・五となつたのであります。そこで人口の自然増加は人口千につき、大正九年には一一であつたものが、昭和十一年には一二になつてゐます(第一四圖)。この自然増加率だけを見ますと、安心してよいやうであります、死亡率を今よりも少くすることは、なか／＼容易でないの

に、出生率の方はぐんぐんと減つて行くのでありますから、決して現状で安心することは出来ないであります。イギリスでも、およそ五十年ほど前の明治十四年から十八年の間における出生率は三三・九で、死亡率は一九であつて、自然増加率はおよそ一四であつたものが、昭和十年には、出生率は一五・二、死亡率は一二で、自然増加率はわづかに三・二となつてゐるのであります。わが國においても、今の状態が続いて行つたならば、今から三、四十年の後に、イギリスのやうにならぬといふことを誰も保證し得ないのであります。さらに、悪い場合はフランスのやうにならぬとも限らぬのであります。

四、出生率減少の原因 それでは、何が原因で出生率が減るかといひますと、一般に晩婚になること、都會に多くの人口が集まること、および思想の影響の三つがその主なものであります。

(1) 晩婚 教育が普及し、文化が発達するにつれて、國民の生活水準が高まり、おのづから結婚の年齢が大きくなる傾向があります。今、大正十二年から昭和二年までの五ケ年を第一期とし、昭和八年から同十二年までの五ケ年を第二期とし、女子の初婚者数を一〇〇として各年齢級別にしますと第一一表のやうになります。第一一表によりますと、女子初婚年齢は二〇歳未満のもので一〇ケ年間に一二人減つてをり、それだけの数を二〇歳

第11表 各年齢級別女子初婚者数(%)

年齢級	第1期 (大正12— 昭和2)	第2期 (昭和8— 昭和12)
20未満	27	15
20—24	51	58
25—29	15	19
30—34	4.2	4.5
35以上	2.2	3.5

から三〇歳未満の年齢級で補つてゐることになります。そして、女子は二〇歳以後において、結婚を一年おくらせますと、一ケ年ごとに〇・三人だけ子供を産む数が減りますから、三年おくれれば一人少く子供をもつこと

になるのであります。わが國の女子が晩婚になると同様に、男子も一般に晩婚になつてゐますが、その影響は女子の場合ほどではないにしても、かなりあらうとおもはれるのであります。

(2) 人口の都會に集ること 人口が都會に集ることは各國共通の現象であつて、わが國でも、最近特にその傾向が著しいのであります。すなはち、わが國では人口一萬以上の都市の人口の全國の人口に對する比は、明治三十一年に一八%であつたものが、大正九年には三三%になり、さらに昭和十年には四七%になつてゐます。従つて、現在では、全人口のおよそ半分は人口一萬以上の都市生活をしてゐるのであります。なほ、人口一〇萬以上の都市生活者数は全人口の二五%すなはち、四分の一を占めるのであります。都會人は一般に田舎のものよりも産兒數の少いことは各國とも同じであつて、わが國における昭和十一年の出生率は全國で二九・九、郡部で三

二・四であつたのに對して、市部では二五・一であつたのであります。都市生活者の人口が年々増加し、しかもそれ等の人々の出生率が少いのでありますから、全體として出生率の減るのも自然のことであります。

(3) 思想の影響

日本民族本來の着眼を見失つて、個人主義的思想にかぶれ、ぜいたくをし、快樂を追ふことの結果、子供の養育をめんどうにあつてもふものが増したのではないでせうか。果して、さうだとすれば昔のギリシヤやローマが亡びた最大原因になつた條件をわが國がもつことになるのであります。産兒をことさら制限する人々は「少く産んで、よく育てよ」といふことをいふのでありますが、その考の奥には、子供は第一子、第二子のやうに初に生れたものが優れてゐて、第四子、第五子のやうに後に生れるものほど劣るといふ考と、多くの子供があれば、手が行き届かないから、よい子供にならないといふ考とを含んでゐます。

第12表 家庭の貧富別による子供の出生順位と智能偏差値

出生順位	家族1人當りの疊數		
	2疊未満	2疊—4疊未滿	4疊以上
第1子	46	48	47
第2子	44	46	48
第3子	47	45	48
第4子	46	46	48
第5子以上	48

出生順位と智能

ところが、第一の出生順位によつて、子供に優劣があるとする考は何等根據のないものであります。これを賢さといふ點についていひますと、私が東京市の或る二つの小學校でB式智能検査を試みた結果では、第一二表に示すやうに、出生順位によつて子供の間に、智能の上の差はほとんどないのであります。第一二表には家族一人當りの疊數で分類してありますが、家族にお

ける總疊數を家族數で割つた値の大小は大體、貧富の度を示すものと見てよいであらうとおもひます。そして疊數二疊未滿の群と四疊以上の群とで

は、後者の智能が多少優れてゐるやうであります。出生順位による差はどの群に於いても、まづないと見てよいのであります。果して、さうだとすれば、第四子、第五子のやうに後の方に生れた子供の中から、將來世の指導者になり得るほどの優れたものが出ないといふことは保證し得ない。否むしろ、その可能性が多いのであらうとおもはれます。故東郷元帥は第四子であつたやうであります。もしも東郷家に第三番目までで第四番目の子供が生れなかつたならば、日本の、否世界の狀態が今とは異つたものになつてゐたかも知れないのであります。

一人子の特徴 つぎに、子供が多いと、手が行きとどかないから、良い子に育てられないといふことは、ちよつと考へると、なるほどとおもはれますが、實はまちがひであります。手が行きとどき過ぎることはかへつてよくないのであつて子供は多い兄弟の間に育てる方が人物を作る上に都合

がよいのであります。子供の最も少い場合は一人子であります。一人子はいつでもよい子供であるかといへば、さうではなくて、しばしば問題の子供が出来るのであります。普通、一人子の缺點とするところは、わがま、で、根氣がなく、社會性に乏しく、人をみな自分の欲望を満足させるための道具のやうに考へて行動する傾向が著しいこととあります。もちろん、世の一人子が、すべてこのやうな傾向をもつてゐるといふのではありませんが、よほど注意して教育に骨ををらなければ、このやうな悪い傾向をもちやすいのであります。

以上、二つの事實から、少く産んでよく育てよといふ標語は何等根據のないことであるといへるのであります。それよりも、むしろ、多く産んで苦勞をすれば、その中から、世を動かすほどの偉人が出る可能性が多いのであります。なほ、子供を育てるのは母性愛に基くもので、子供を育てた

このないものが考へるほど苦勞なものではなく、また、四人を育てるのは一人を育てる四倍の苦勞があるものでもないのであります。それなのに、子供を育てたことのないものが、勝手に考へたことばに動かされて、ことさら産兒の數を制限しようとするものが多少でもあるのは、實になげかはしいことでもあります。

マルサスの考のあやまり もつとも、産兒制限の主張者の中には、無制限に子供を産めば、世界中が食糧や日用品に事かくやうになるであらうといふやうな世界の經濟といふ立場から論を立てるものもあります。その論據とするところは、マルサスが述べた考、すなはち、人間の殖え方は一定の年數間に二倍、四倍、八倍といふやうに幾何級數的に進むのに、物資の方は同じ年數の間に一倍、二倍、三倍といふやうに算術級數的にしか増加しないといふ考にあるのであります。それは物資の生産法が改善され

ないで昔のまゝならば、さういふこともありますが、自然科学の研究とその應用との盛な今日では當分、世界の物資が不足するといふ心配はないのであります。でありますから、マルサスの説を本とする産兒制限必要論は取るに足らぬことでもあります。

以上のやうに、初婚年齢の多くなると、人口が都會に集ること、および個人主義的思想から産兒制限をするものがあるといふ三つの原因から出生率が漸減してゐると考へられますが、その出生率の減るのは、どの社會層において最も著しいかといふことが、もう一つの大切な問題であります。

社會層と出生率 人口問題研究所の研究によりますと社會層によつて産兒數が異なることが明らかになつてゐます。すなはち(一)社會から補助を受けてゐる階級では平均五・二人、(二)農業者では五・〇人、(三)所得税一千圓以上を納める富裕者では四・五人、(四)官吏では三・六人となつてゐます。農業は

最も健實な職業で、その社會層から多くの子供の生れるのは、よろこぶべきことではありますが、富裕者や官吏などのやうに比較的素質のよいもの、家庭に産兒數が少くて、社會から補助を受けてやつと生活してゐるやうな身體も精神も比較的劣つてゐるものの家庭に産兒數の多いことになること、數世代を經過する間に、日本の人口を構成する要素の割合が變化して、優等なもの數が少くなり、反對に劣等なもの數が多くなつて、全體としての水準がさがるといふ悲しむべき状態をもたらすのであります。そして、これは日本の將來にとつて一つの大問題であります。

そこで、青年男女をして出来るだけ早く結婚させ、都會へと集る傾向を抑へるとともに、特に悪い思想にかぶれないやうにして、出生率を最小限度で今の状態を維持することにつめなければならぬのであります。思想の問題では、個人主義的の考を排斥して、各家庭の子供は、おそれ多くも

陛下の赤子であり、國の寶であつて、自分は、それをあづかつて養育してゐるのだといふ考に徹して行かなければなりません。そして、子供のためには、苦勞を忘れるといふ父母の本來の心構に歸らなければならぬのであります。すなはち、日本人の本領に生きるやうになれば、産兒制限といふやうな亡國への墓道を掘ることなく、日本の大使命を成しとげる上に貢獻するやうになるのであります。

五、人口増殖の方法 人口を増殖するには一方において、出生率を高い水準に維持するとともに、他方には、死亡率を減少することが必要であります。もちろん、それには一定の限度がある、それは人には壽命が限られてゐるからであります。しかし、日本の現状では、まだ死亡率を減少させる範圍は極めて廣いのであります。殊に乳幼兒の死亡數と青少年の結核による死亡數とを減少させることが最も大切であります。

むすび

以上で、日本民族のどんなものであるかを身體の方面と精神の方面とからながめ、その何れの方面においても劣つた點よりも優れた點の多いことを見たのであります。すなはち、身體は小さいけれども、身體の中で、最も大切な坐高は長く、下肢の短いことが、かへつて働の上では都合がよく、さらに頭の大きいこと、従つて腦重の重いことは形の上から見たいところであります。また精神身體的の働では肺活量も握力も大であり、仕事は速く出来、特に器用さにおいては、著しく優れてゐることを知つたのであります。さらに精神の方面では、智能は世界諸民族の中で、最も優れてをり、人の疑つてゐた獨創力においても、決して劣つてゐるものでないことを見、氣質は、優れてゐると考へられる内向性に富み、性格は衝動型

よりも思慮型であり、動搖型よりも固執型であり、消極的な保守型よりも積極的な進取型であり、自己中心型よりも社會中心型であることを推定したのであります。そして、最後の社會中心型は、着眼の正しいことを示すものであつて、日本民族の數ある優れた性質の中で、最も重要な點であることを見たのであります。しかし、このやうに優れた民族ではありますが、最近の人口の動態を見ると、將來において人的資源の不足を生ずるおそれがあることを述べたのであります。それで、今からでもおそくはないから、出来るだけ良い子供を多く産む方策を立てなければならぬのであります。われわれは、日本民族の力のどんなものであるかをよく知つて、われわれの素質のよいことに確信をもち、しかも他民族をあなどらず、たがひに手をたづさへて、われわれの使命を達成することに向つて突き進んで行かなければならぬのであります。道は遠い。けれども決して不可能ではない

のであります。

それにつけても、國民の能率増進法を工夫する必要が大いにあります。同じ素質をもち、同じ人數でも、その教育の仕方、その使ひ方によつては能率の上に著しい差を生ずるからであります。

國語國字問題

國民教育の能率と國民の日常生活における能率とに深い關係をもつのは國語國字であります。多くの外國では、國民學校における國語の授業時間數は一週平均八時間であるのに對して、わが國では今までは平均十一時間二十分を用ひてゐたのであるが、國語における力は彼れにまさるどころではなく、かへつて劣つてゐるのであります。この現状は、どうしても速かに改善されなければなりません。そして、その一つの重要な方法としては、國語國字はもつと合理的に簡易化すること、すなはち、一方には、最後はカナだけにする目的で漢字を漸次減じて行き、他方には

かなづかひを簡單にすることが必要であると信ずるものであります。

科學の振興

わが國は物的資源にとぼしいとされてゐますが、大東亞共榮圈について考へれば決して持たない國ではなく、日々の生活を豊かにし文化を高め國防力を充實する上に十分な資源が得られるのであります。それで、それ等の資源を最も有効に活用して日本の大使命を果たすには、科學の研究と科學的知識の普及とを大いに必要とするのであります。

能率増進

さらに、職業生活における能率増進法についても、科學的に工夫するところがなくてはなりません。それには、いろいろの方法はあるでありませうが、人々の健康を増進すること、適材を適所におくこと、作業法を工夫すること、休養を適當にとらせること、餘暇の善用法を講じさせることなどが、中でも重要であります。

正しい着眼

このやうに、いろいろと反省し、また改善しなければなら

ぬ點がありますが、日本の將來にとつて最も大切なことは、正しい着眼點を見失はないといふことでもあります。すなはち、一億のものが一つ心になり、少しでも日本の使命をなしとげることに対して貢献しようとするつもりで、それらの職域において最善を盡すことでもあります。

明治天皇御製

國のためいよくはげめちよろづの

民もこゝろをひとつにはして

ちよろづの民の力をあつめなば

いかなるわざも成らむとぞおもふ

會員登録番號一〇九五〇九

昭和十六年十二月五日印刷
昭和十七年一月十五日發行

日本民族の力
定價金八拾五錢



下許
復製

著作者 田中寛一
東京市神田區神保町二ノ三

發行者 藤原嘉治
東京市京橋區銀座西二ノ三

印刷所 三協印刷株式會社
高橋郁

發售所

東京市神田區神保町二丁目三番地
株式會社 螢雪書院
電話九段(33)〇八二三番
振替東京三二二四九番

社會式株給配版出本日 九ノ二町路淡區田神市京東 元給配

文學博士 田中寬一著

好評

日本の人的資源

全一冊

新四六判布裝箱入 定價金貳圓八拾錢 送料拾四錢

本書を現代日本の各層の
人の士に必ず読むを薦む！

- 第一章 緒論 理想の實現と人的資源・人と物
 - 第二章 日本人の身體 日本人の解剖學的特徴・日本人の身體の形態・日本人の精神的機能
 - 第三章 日本人の智能 從來の研究・B式智能検査・東洋に於ける諸民族の智能・アメリカに於ける諸民族の智能・日本内外地及び外國に於ける日本人の智能・日本人の獨創力
 - 第四章 日本人の氣質性格 文藝の特徵と日本人の氣質性格・變態社會現象と日本人の氣質性格・犯罪と日本人の氣質性格・品等法に現れた日本人の氣質・實驗の結果に現れた日本人の氣質性格
 - 第五章 日本精神 團體精神・國民精神發達の條件
 - 第六章 人的資源の量的方面 出生率死亡率及び自然増加率・出生率減退の原因・社會層と出生率・日本に於ける死亡率・人口増殖策
- 附録附表・參考書目

東京市神田區三井町二ノ三 株式會社 螢雪書院 振替東京三二九(33)段九話電 九四二二

